



KANAGAWA

神奈川県
教育委員会

まなびと学びをつなぐ

小学校と就学前教育の連携 指導資料集



神奈川県教育委員会

平成23年3月

はじめに

子どもを取り巻く社会が大きく変化し「小1問題」「小1プロブレム」という言葉が聞かれるようになり、子どもたちの育ちに様々な課題が見えてきました。

平成17年1月には、中央教育審議会から「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた、今後の幼児教育の在り方について」の答申が出され、小学校教育との連携・接続の強化・改善という具体的施策が示されました。

本県では、小学校と就学前教育の連携がより一層推進されることを目指し、平成19年度から「小学校と就学前教育の連携の実践研究」に取り組みました。平成21年3月には、「小学校と就学前教育の連携実践資料集作成委員会」により具体的な実践事例をまとめ、「小学校と就学前教育の連携実践資料集」を発行しました。

各地域においても幼稚園と小学校の連携が円滑に行われるよう、交流保育・授業や教師の合同研修等が行われるようになってきましたが、すべての幼児・児童のための育ちや学びの接続を考えると、まだ十分とは言えない状況があります。

そこで、今回、幼稚園や小学校においてそれぞれの指導者がどのような援助や支援をしているのか、幼稚園の『まなび』が小学校の『学び』にどのように連続していくのかといった指導者のための資料集を作成しました。

資料集作成にあたり次のように整理をし、章立てをしました。

- I 幼稚園と小学校の生活をつなぐ
- II 遊びを通した『まなび』と各教科等の中での『学び』をつなぐ
- III 教育委員会等の役割
- IV 幼稚園と小学校と家庭や地域をつなぐ

この冊子に記載されている事例を参考にして各地域、各学校の実態に応じた指導を「つないで」いただき、小学校と就学前教育の連携の充実に役立てていただくことを期待しております。

最後に指導資料集作成にあたりご尽力いただきました、青山学院大学教授 小林紀子氏をはじめ、委員の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成23年3月

神奈川県教育委員会教育局支援教育部子ども教育支援課長
笠原 陽子

就学前教育と小学校との連携の必要性

「幼児期の教育と児童期の教育は、それぞれの段階における役割と責任を果たすとともに、子どもの発達や学びの連続性を保障するため、両者の教育が円滑に接続し、教育の連続性・一貫性を確保し、子どもに対して体系的な教育が組織的に行われるようにすることが重要である」

（「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」より一部抜粋）

就学前教育と小学校教育の連携においては、次の3つが必要であると考えます。

○子どもの育ちを連続してとらえる

- ・子どもの育ちは、幼児期から児童期へと連続してつながっています。幼稚園・小学校教諭はともに一人ひとりの子どもの育ちについて共通に理解して、子どもに必要なまなびや体験が得られるように、幼児期から児童期へと長期的に捉えた教育課程を編成することが求められます。

○子どもの視点から考える

- ・子どもの発達や学びの連続性を保障するためには、子どもの視点に立って、小学校への意欲や期待をつなげていくことが大切です。

○幼児期の教育と小学校教育のつながりを考える

- ・幼稚園では、遊びを中心とした総合的な指導を行い、小学校以降の「生きる力」の基礎を育成して小学校での教科学習につなげています。こうした、つながりの視点をもって相互の教育内容を理解することが大切です。

指導資料集の視点

幼稚園と小学校との連携が円滑な接続を図るためには、まず指導者が互いの教育・保育のねらいや内容を理解し、一人ひとりの子どもに応じた援助や支援ができるようにすることが大切です。そこで本資料集を2つの視点で整理して示しました。

1つ目の視点は、「小学校と幼稚園の子どもたちが過ごす環境」です。どこがどう違っていているのか、どのような支援や援助の工夫をしているのかが分かるように校種の様子を見開きで作成しました。

2つ目の視点は、「行政の支援と地域との連携」です。幼稚園と小学校の円滑な連携を進めるためには、行政の役割と地域の資源を継続して活用することです。このことについて各地域の事例や資料を提示しました。

この事例をヒントに各地域の実態に応じた「小学校と就学前教育の連携」を充実させていきたいと考えています。

目次

	ページ
I 幼稚園と小学校の生活をつなぐ	1
1 子どもに対する指導・働きかけ	2
生活の場(保育室・教室の環境づくり)	2,3
生活の流れ(幼稚園・小学校)	4,5
場面① 持ち物(衣服も含め)	6
場面② トイレの使い方	7
場面③ 衣服の着脱・始末	8
場面④ 食事の指導	9
場面⑤ 係・当番活動	10
場面⑥ 話しの聞き方	11
2 保護者に対する支援・働きかけ	12
ケース① 欠席したとき	12
ケース② けがをしたとき	13
ケース③ 子ども同士で折り合いがつかないとき	14
ケース④ 保護者からの相談を受けたとき	15
ケース⑤ 気になる行動が見られたとき	16
ケース⑥ 個の育ちを伝えるとき	17
ケース⑦ 保育参加・参観、授業参観のとき	18
ケース⑧ 家庭訪問のとき	19
II 遊びを通した『まなび』各教科等の中での『学び』をつなぐ	21
1 幼児の遊びと各教科等の内容の援助と支援	22
事例① 砂遊び	22,23
事例② ままごと遊び	24,25
事例③ ドッジボール	26,27
事例④ 運動会	28,29
事例⑤ 飼育栽培活動	30,31
事例⑥ お店屋さんごっこ	32,33
事例⑦ 色水遊び	34,35
事例⑧ 劇遊び	36,37
2 幼小接続における教育課程編成・指導計画作成上の留意点	38
教育課程編成上の留意点	38
指導計画作成上の留意点	39,40
計画例① 南足柄市立むつみ幼稚園の指導計画(月案)	41
計画例② 南足柄市立むつみ幼稚園の指導計画(日案)	42,43
計画例③ スタートカリキュラム	44
計画例④ 生活科との合科・関連的な指導	45
III 教育委員会等の役割	46
実践例① 平塚市	47
実践例② 伊勢原市	48
IV 幼稚園と小学校と家庭や地域をつなぐ(資料)	49
資料① 幼稚園幼児指導要録	50,51
資料② 支援シート(個別の支援計画)事例	52,53
資料③ バトンタッチシート(幼保小懇談会)事例	54,55
資料④ ネットワークシート(地域)事例	56,57

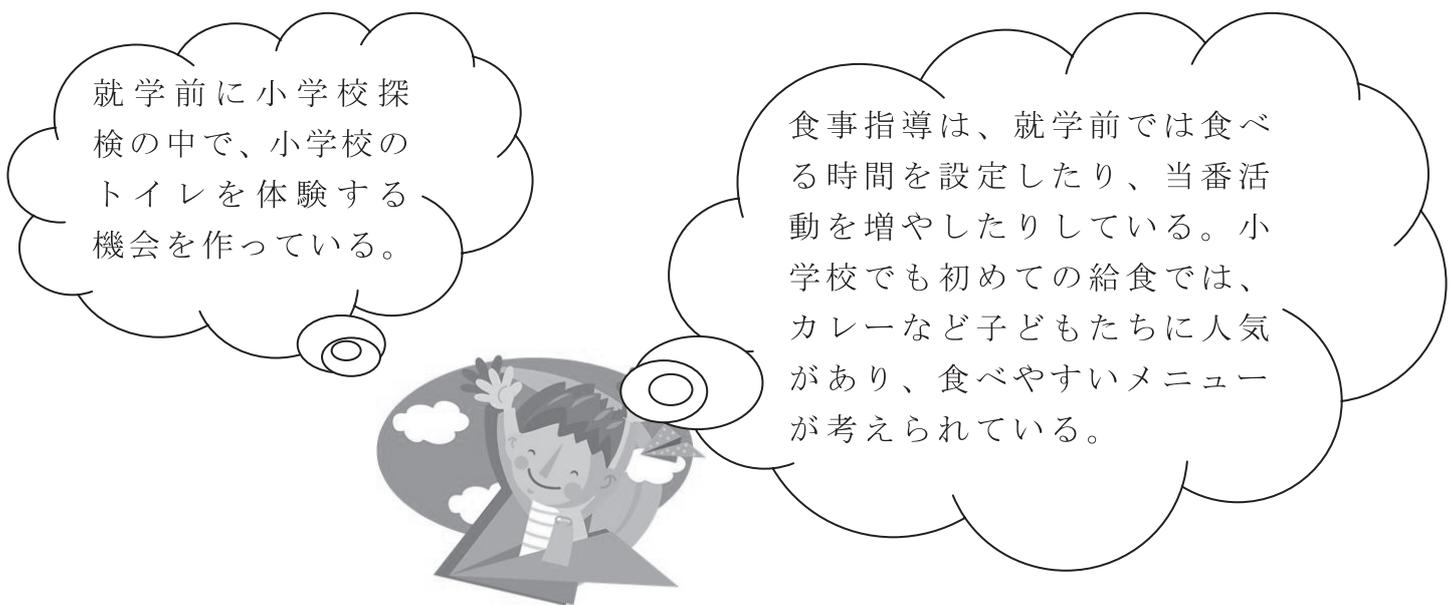
I 幼稚園と小学校の生活をつなぐ

就学前の子どもたちは、幼稚園、保育所等から大きな期待と喜びを胸に抱きながら小学校に入学します。しかし、幼稚園、保育所等と小学校では、環境構成や生活の仕方、生活の場の使い方等で違いがあり、「不安や戸惑い」を感じる子どももいます。

そこで、小学校生活を順調にスタートする上で幼稚園、保育所等と小学校がその違いや共通点について相互に理解し、生活をつなぐためにどうすればよいかを考え、工夫していくことがとても重要です。

この章では、幼稚園、保育所等と小学校のそれぞれの環境や生活の仕方、子どもへの接し方や保護者への対応の仕方などを対比した形で表すことでその違いと共通点をわかりやすく示しています。あわせて、接続期における指導の工夫についても例示として記載しています。

円滑な接続をするために（例）



就学前に小学校探検の中で、小学校のトイレを体験する機会を作っている。

食事指導は、就学前では食べる時間を設定したり、当番活動を増やしたりしている。小学校でも初めての給食では、カレーなど子どもたちに人気があり、食べやすいメニューが考えられている。

次に示した『生活の場・流れ』などでは、主な生活の場面に応じた幼児・児童の実態や指導の工夫、接続期の工夫を示しました。そして「教育のもと」にその指導が幼稚園教育要領や小学校学習指導要領では、どこにつながっているのか示しました。

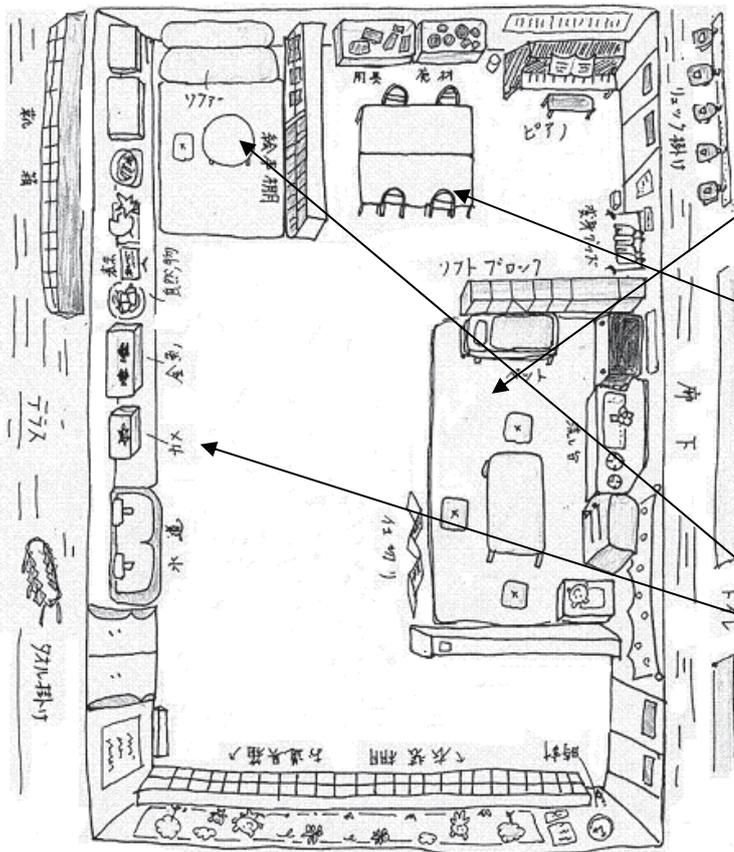
『ケース①～⑧』では、保護者に対しての幼稚園と小学校それぞれでの対応や共通点、ポイントになることを示しています。

1. 子どもに対する指導・働きかけ【生活の場】

《幼稚園の保育室環境作り》

子どもたちが遊びたくなる場をつくる

安心して過ごせる場
生活しやすい場
遊びたくなる場



安心して過ごせる場の工夫

ままごとコーナー

- ・ 取りやすく片付けやすい工夫
- ・ さわってみたい、やってみたい物がある家庭的な雰囲気

製作コーナー

- ・ 物(用具、素材)の置き場が分かりやすいような工夫
- ・ 使いやすく取り出しやすく、見やすい工夫
- ・ 元に戻しやすい表示

絵本コーナー、自然物のコーナー

- ・ 生活や季節、その時期に興味のある本や自然物・小動物
- ・ 手に取りやすい工夫
- ・ 視覚に入りやすい表示の工夫

生活しやすい場の工夫

自分の身の回りのことは自分でできる工夫

- ・ 靴箱、上着掛け、衣装箱、道具箱、リュック掛けなど個人用具の置き場には名前とシールでわかりやすく表示
- ・ シールノートで日にちや曜日を確認
- ・ 見やすい場所に時計を設置
- ・ 用具や教材は、幼児が扱いやすい大きさに配慮
- ・ 当番表やグループ表の掲示

遊びたくなる場の工夫

仲間と共に楽しく生活する工夫

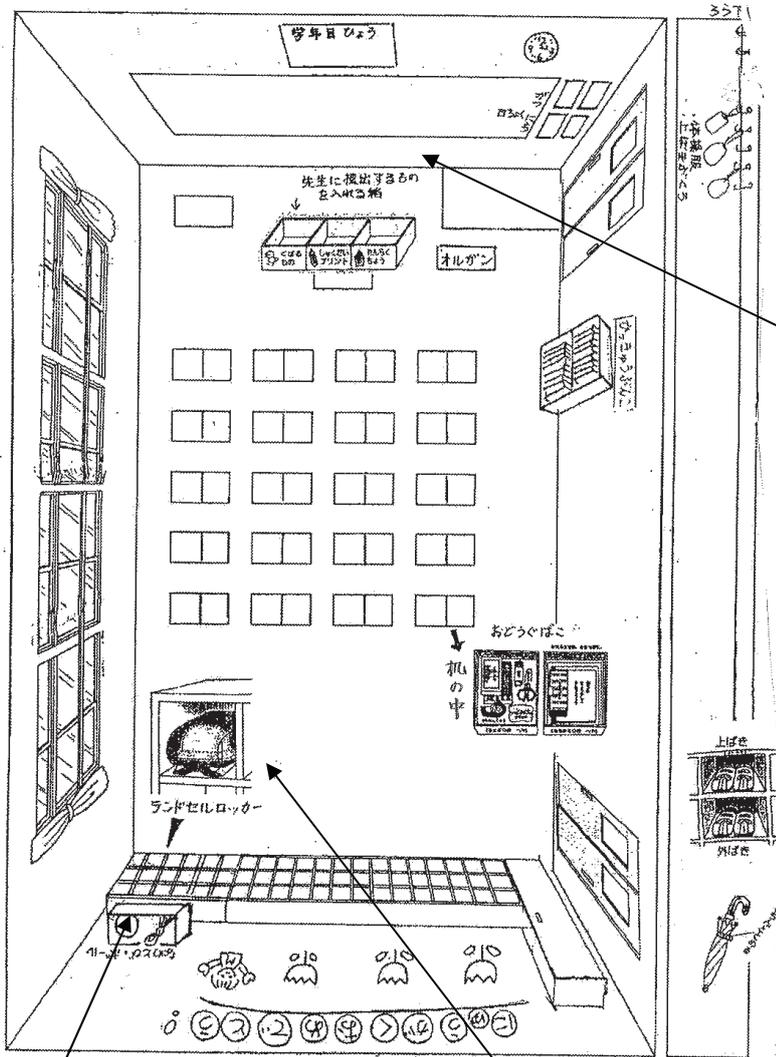
- ・ 季節や行事を意識した壁面や誕生表やカレンダーの掲示
- ・ 共有の遊具や教材教具は操作しやすいよう所定の場所に設置
- ・ クラス全員が集まりやすいような目印などの表示

★指導のポイント

保育室の環境は、生活や遊びを通して幼児の興味や関心を捉え、個々の発達や遊びの流れを考慮しつつ、教師側から適当だと思われる環境を構成しましょう。

《1年生の教室環境づくり》

子どもたちが気持ちよく生活・学習できる場をつくる



みんなで過ごす場
安全に過ごせる場
学習しやすい場

学習しやすい場の工夫

掲示物

- ・学習に集中できるように前面の掲示物は少なくし、側面、背面には学習内容や児童の作品など時期をとらえて貼ります。

座席の配置

- ・活動の目的に応じてグループ編成を変えたり、コの字型等に並べて座るなどします。

提出物

- ・自主・自立を促すため「出すもの」「配るもの」の箱を用意して自分で入れるようにします。

みんなで過ごす場の工夫

みんなで使うもの

(ボール、なわとび、学級文庫など)

- ・保管する場所を決めておきます。
- ・ラベルをつけるなど分かりやすくします。
- ・使い方、片付け方は、みんなでルールを決めます。

安全に過ごせる場の工夫

- ・整理整頓に気を付け、活動しやすくしておきます。
- ・児童に見える位置、手の届く場所に置きます。
- ・ランドセルはベルトを外に出さないように上部が前になるようにします。

★指導のポイント

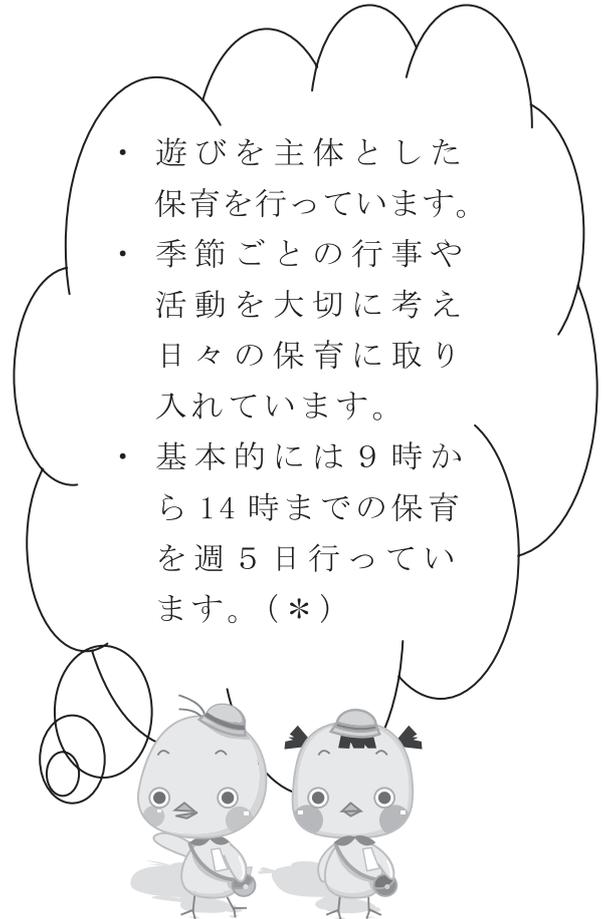
教室は学習する場でもあり友達と生活する場でもあるので、1日も早く環境に慣れ、気持ちよく過ごせるように環境構成を工夫しましょう。

*** 幼稚園生活の一日の流れ(例)**

9:00	9:20		12:00		13:30	14:00
登園	朝の会	自ら選ぶ活動 クラスの友達と一緒に 行う活動	弁当	自ら選ぶ活動	帰りの会	降園

- ・「自ら選ぶ活動」は幼稚園では大切な活動です。誰とどこでどんなことをして遊ぶのか、自分なりに考えて自己決定し、友達とのやりとりや場の選定、ものの活用、使うものを作り出すなど、自分自身と向き合う作業を伴う活動だからです。
- ・自分は何をしたいのかという興味関心や思い、「友達とどうやりとりをして一緒に遊ぶ」という〈了解〉や〈合意〉を得るのか、「どのように遊びのイメージを伝え共有するのか」など、この活動を通して自分の思いを実現するために〈葛藤〉や〈喜び〉を繰り返しつつ総合的な力を身に付けていきます。

- ・遊びを主体とした保育を行っています。
- ・季節ごとの行事や活動を大切に考え日々の保育に取り入れています。
- ・基本的には9時から14時までの保育を週5日行っています。(*)



帰りの会、降園で気を付けていること

帰りの会

「クラス全員で集まる」という意味と、「共通体験の場」としての捉えがある。教師が投げかけた活動は時期を十分考慮した上で行い、そうした共通体験が、クラスの仲間意識の芽生えにもつながります。

降園

保護者の迎えによる降園。幼児の園での様子や必要な情報等伝えたいことなどを、直接顔を合わせて保護者に伝えています。

★教育のもと

* 幼稚園教育要領 第1章 総則 第2 教育課程の編成
幼稚園の1日の教育課程に係る教育時間は、4時間を標準とすること。
ただし、幼児の心身の発達の程度や季節などに適切に配慮すること。

* 小学校生活の1日の流れ(例)

	8:30	10:30			12:25	13:10	14:00		15:00			
登校	朝の会	一時 間目	二時 間目	中 休 み	三時 間目	四時 間目	給 食	掃 除	昼 休 み	五時 間目	帰 り の 会	下 校

(1単位時間は45分授業)

- ・45分の授業をもとに一日の日課が決められています。
- ・教科ごとに、目標と学習内容が決められていて、系統的、発展的に学習が行われます。

- ・児童の様子を見ながら、45分を20分ずつ2回、15分ずつ3回に区切るなど授業の時間や内容を工夫しています。(*)
- ・日課表を時計盤で示したり絵で表したりして一日の学校生活の流れを知り、先の見通しをもって行動できるようにします。

- ・朝の会で一日の予定を確認し帰りの会で明日の予定に係などが連絡します。
- ・一週間の時間表を、教室に掲示していつでも自分で確認することができるようにしておきます。



帰りの会・下校で気を付けていること

帰りの会

一日の出来事を振り返り、頑張ったことや友達のよかったことを認め合い、明日もまた頑張ろうといった意欲がもてるような会にしていきます。

机と椅子を整理してから挨拶して下校します。

下校

通学路が決められています。

入学前に危険な場所を確認しておいてもらいます。

安全面から学年の下校時刻をそろえ集団下校することが大切です。

★教育のもと

- * 小学校学習指導要領解説 総則編 第3章：教育課程の編成及び実施 4：授業の1単位時間
各教科等のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、児童の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めるものとする。

場面① 持ち物(衣服も含め)についてはどのように指導していますか？

子どもの持ち物は、基本は毎日持ち帰ることが望ましいが、使用頻度や期間等で置いておくことが望ましいものもあります。

(例)

幼児・児童の実態

幼稚園

毎日持ち帰るもの
リュック・帽子・タオル
週ごとに持ち帰るもの
上履き
長期間おいておくもの
道具箱・衣装箱



小学校

毎日持ち帰るもの
ランドセル
週ごとに持ち帰るもの
体操着・上履き
長期間おいておくもの
道具箱



しっかり整理できるように工夫していること

幼稚園

- ・リュック・帽子・タオルは、登園時に所定の場所に置くようにします。シールを貼ったり図や表を掲示したりしてわかりやすくします。
- ・道具箱の中の物には全て記名をします。パステルやマーカーのふたにも記名します。
- ・衣装箱中に上着・ズボン・下着・靴下・色帽子・体操ズボン・名前付きビニル袋を入れ、汚れたときにすぐに着替えられるようにします。



小学校

- ・ランドセルは、登校時に教科書を机の中にしまい、ロッカーに置きます。使いやすいように整理整頓し、自分で管理します。
- ・道具箱の中に入れておくものを指示し、何をどこにしまったらよいかを図で示し掲示します。
- ・パステルなど、バラバラになりやすいものは、記名付きのゴムバンドで止めておくようにします。



接続期の工夫

自分の持ち物は、自分で整理整頓したり、扱えるようにしていきます。

保護者には、ランドセルの中の学用品や配布物を確認しながら学校での様子を把握してもらいます。

★教育のもと

幼稚園教育要領では、領域「健康」の中に『幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。』とある。

小学校学習指導要領解説の道徳編の中に『健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。』とある。

場面② トイレの使い方については、どのように指導していますか？

トイレについては、子どもが行く頻度やトイレのある場所、中の様子、使い方などに、幼稚園と小学校では違いがあります。子どもたちが安心してトイレに行くことができるように工夫しています。

幼児・児童の実態に応じた指導

幼稚園

遊びや活動の合間にトイレに行くよう声をかけています。徐々に子どもたちは自分で気づき、トイレに行けるように指導しています。

入園当初は、大半の子どもが自分で排泄ができるが自立していない子どももいます。大便秘せできない子どもが多いです。



小学校

授業の途中で行かなくてもよいように、休み時間に済ませておくように指導しています。

小学校のトイレは、比較的和式が多いです。和式に慣れていない子どももたくさんいます。



安心して使えるように工夫していること

幼稚園

- ・自分で排泄ができない子にはその子の成長に合わせて課題を設定し保護者と連携しながら自立に向けて取り組んでいきます。
- ・トイレの使い方の図を掲示したり絵カードを使って説明したりするなど流れや約束事を視覚的に分かるように表しています。
- ・入口には、安心して入りやすいように子どもたちの好きなキャラクターを掲示するなど工夫しています。
- ・入学時は不安が高まる時です。トイレに関する絵本を読むなどしています。

小学校

- ・和式トイレの使い方をパネルを使って説明した後、実際にトイレに行って確認しています。
- ・常に清潔にして入りやすいようにしています。
- ・トイレの便器の前に立つ位置、座る位置に足形をつけておきます。
- ・トイレの入り口をドアではなく、のれん式で開放的にしています。
- ・絵を貼ったり音楽を流したりして温かい雰囲気を作っています。

接続期の工夫

小学校の和式便器の型紙を作り、使い方や座り方を確認しています。

就学前に小学校探検の中で小学校のトイレを体験する機会を作っています。

★教育のもと

幼稚園教育要領では、領域「人間関係」の中に『共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。』とある。小学校学習指導要領解説の道徳編の中に『約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。』とある。

場面③ 衣服の着脱・始末については、どのように指導していますか？

幼稚園や小学校では、普段は登園、登校したときの衣服で過ごしますが、活動や季節等に応じて衣服を着替えます。着替え方やその後始末については随時指導しています。

幼児・児童の実態

幼稚園

寒い時、暑い時、上着を着脱します。

汚れた時、トイレで失敗した時、着脱・始末をします。

絵の具を使う時、スマックを着用します。

会食や調理をする時、エプロンや三角巾を着用します。



小学校

給食当番の時、白衣を着用します。

体育の時、体操着に着替えます。

調理をする時、エプロンに着替えます。



自分の力でできるように工夫していること

幼稚園

- ・できないことは、見守ったり認めたりしながら自立できるようにしています。その際、教師との温かな信頼関係があることが大切です。
- ・脱いだものは、たたんで氏名入りのビニル袋に入れて持ち帰るようにしています。
- ・その子どもの成長に合わせて課題を設定し、保護者の協力を得ながら自立に向けて取り組みます。



小学校

- ・着替えにかかる時間は、個人差があることから、例えば、体育の時間になってから着替えるのではなく、その前の休み時間を利用して着替えておくなど柔軟な対応が大切です。
- ・脱いだ服、体操着は、きちんとたたみ、袋に入れます。一人で着たりたたんだりできるように繰り返し指導していきます。
- ・白衣は前ボタン式で、髪を帽子の中に入れ、マスクを着用します。

接続期の工夫

自分の衣装箱に下着や靴下も常時保管し、自分で必要に応じて着替えるようにしています。

トイレで失敗したとき等は、保健室に備えてある衣服に着替えるようにします。

★教育のもと

幼稚園教育要領では、領域「健康」に、『身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。』とある。

小学校学習指導要領解説の道徳編に『健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないうで、規則正しい生活をする。』とある。

場面④ 食事については、どのように指導していますか？

小学校は、給食を実施している学校がほとんどです。幼稚園については、弁当もあれば給食を実施している園もあります。

幼稚園

教師の指導や幼児・児童の実態

小学校

大切なことは、まず楽しく食べることです。その際、家庭での食生活や食習慣を基に、基本的なマナーやルールを学びます。

初めのうちは6年生が手伝いに来てくれるところもありますが、当番を決めて自分たちで行っています。

食事時間は、個人差が大きいため20分から40分間と幅をもって時間を設定しています。

食事時間は25分程度で、先割れスプーンに代わり箸で食えることが増えています。

歯の健康についても知り、歯磨き指導を行っています。

おかわりについてはクラスでルールを決めています。



幼稚園

楽しく会食するために工夫していること

小学校

- ・ 食事の準備の仕方が分かりやすいよう絵カードや図にするなど視覚的教材を使って説明しています。
- ・ 一人ひとり食べる時間や量が異なることに配慮し、落ち着いて食べられるような時間や場を確保しています。
- ・ 食に関心をもてるよう自分たちが育てた野菜を調理して会食をするなどの機会を設けています。
- ・ 定期的にお便りを通して食事の様子を伝え、実態を把握してもらっています。



- ・ 班ごとに配膳するなど安全に効率よくできるようにしています。
- ・ 食べる量を減らすなどして苦手なものでも口にしよう声をかけています。
- ・ 自分たちが育てた作物を給食の食材に使用して給食に親しむようにしています。
- ・ 給食試食会を保護者対象に開き、給食についての理解を図る機会を設定しています。

接続期の工夫

就学に向けて食べる時間を設定（時計を利用）したり、当番活動を増やしたりする活動を取り入れています。

1年生の初めての給食ではカレーなど子どもたちが好む食べやすいメニューが考えられています。

★教育のもと

食育については、幼稚園教育要領では、領域「健康」に、『先生や友達と食べることを楽しむ。』とある。小学校学習指導要領解説の特別活動編の学級活動に『食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成』とある。

場面⑤ 係、当番活動についてはどのように指導していますか？

集団で生活をしていく上で、必要な役割を分担し、協力しながら当番活動を行っていきます。小学校では、自分たちの生活を楽しく豊かにするために創意工夫しながら活動を進めていく係活動にも積極的に取り組んでいます。

教師の指導や幼児・児童の実態

幼稚園

食事の準備、動植物の世話、教師のお手伝いなどを行います。
当番活動を通して子ども自身が責任をもち、やる気が出るよう援助していきます。



小学校

給食当番や日直等の当番活動や生き物係や本係等の係活動を行います。
係や当番活動をやろうとする気持ちを引き出し、話し合って内容や役割を決めていきます。



主体的に活動するために工夫していること

幼稚園

- ・友達と一緒に活動する中で協力したり、物事をなし遂げようとする気持ちや生活の中でルールを守ることの必要性を理解できるようにしていきます。
- ・自分の役割を意識しながら行動するように促します。

小学校

- ・学級内の組織づくりでは、子ども達自身がやりたい活動を見だし、協力していけるように支援します。
- ・学級生活を豊かにするために係活動を子ども達の発想で話し合い、決めていくようにします。
- ・子ども達の気持ちを大切に、褒めながら活動を広げていきます。



接続期の工夫

友達と生活する中でお互いに快適に過ごせるように共通の意識をもって取り組めるように促していきます。



当番や係は、活動がスムーズに行くように時間がかかっても認めながら声をかけていきます。

★教育のもと

幼稚園教育要領では、領域「人間関係」に、『友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。』とある。

小学校学習指導要領解説の特別活動編の学級活動に『学級内の組織づくりや仕事の分担処理』『清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解』とある。

また、キャリア教育の視点からも、幼稚園、小学校での当番活動、係活動など日常的な活動、経験を積み重ねることが、社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育むことにつながる。

場面⑥ 話の聞き方についてはどのように指導していますか？

人の話を聞くことは、園・学校生活を送る上でも、また、学習をする上でもとても重要なことです。人の話をしっかりと聞く習慣をこの時期から身に付けたいものです。

幼稚園

全体で話を聞く場面は、主に朝の会や帰りの会です。
自ら選ぶ活動の時間は、遊びの中で幼児同士での思いや考えを伝え合う場面があります。

幼児・児童の実態



小学校

全体で話を聞く場面は、授業中や朝の会・帰りの会など多くあります。先生の話や指示を聞いたり、児童同士で話し合ったりします。
自分の席に座って聞くことが多いです。

話がしっかり聞けるように工夫していること

幼稚園

- ・まず教師が子どもの話を聞くことで、子どもに充実感がもてるようにします。
- ・話し手の顔を見ながら話が聞けるように、円の形になって座ったり、いすに座ったりします。



小学校



- ・話をする人の方に顔を向け耳だけでなく、目でも話す人の様子を確認しながら聞くことができるようにしています。
- ・話が終わるまでしっかり聞くようにしています。

接続期の工夫

教師の話し方にも工夫を

- ・幼児の心が弾むような明るい声でリズムカルに話します。
- ・集中できる時間が短いので短時間でしっかり伝わるように話します。
- ・幼児と視線を合わせながらしっかりと聞くことができているか確認しながら話します。

- ・全員が注目してから話をします。
- ・注目させる時には、黙って指などでサインを送ったり絵や図など半具体物などを見せたりします。
- ・声の大きさやトーンを考えて話します。

★教育のもと

幼稚園教育要領では、領域「言葉」の中に『人の話を注意して聞き、相手の分かるように話す。』とある。
小学校学習指導要領解説の国語編の中に『大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと』とある。

2. 保護者に対する支援・働きかけ

ケース① 欠席したときの対応は、どのようにしていますか？

日常的に保護者と連絡をとることが子どもたちの状況を適切に理解するために不可欠です。特に欠席した場合は、子どもや保護者の立場に立って考え、対応することが大切です。

連絡がなく欠席した場合には、朝のうちに園や学校から必ず連絡を入れて確認することが大切です。

欠席には、「病気」のほか「不登校」や、「虐待」など様々な状況が考えられるので、その背景を慎重に見極めて次の指導にあたることが大切です。

欠席し始めた時の対応

幼稚園



欠席の理由をきちんと把握して、園でできることや、配慮してほしいことについて保護者に確認しています。

配布物などがあった場合は、担任が届けますが、場合によっては連絡袋に配布物を入れ、友達の保護者に届けてもらうようお願いをすることもあります。

小学校



連絡帳に返事を書いて、連絡袋に配布物やプリント等とともに入れ、届けてくれた児童に渡して届けてもらいます。

<欠席のときの対応>は、
1日目 電話
2日目 手紙
3日目 家庭訪問 ですね。
登校支援の第一歩です。
学校が気にかけているということ
を伝えるようにします。

欠席が続いた時等の対応



ケース会議などで情報を得た虐待が疑われる家庭に対しては、園長先生と一緒に家庭訪問をすることにしています。
必要に応じて、兄や姉が小学校にいる場合は、小学校と連絡を取り、情報を共有します。



欠席中の学習については、登校後の学習時間内や授業時間内に個別指導を行って、遅れのないように補います。

★支援のポイント

欠席の理由や状況を知り、気になることがある場合は、早急に対応していくことを基本にしています。事後指導等も適切に対応していくよう心がけています。

ケース② 子どもがけがをしたときの対応は、どのようにしていますか？

小学校では、養護教諭がけがの状況をみて対応することができますが、幼稚園では、担任や管理職がその代わりに務めています。

幼稚園

職員間で連携を取ってけがをした本人の対応と周りの幼児への対応を同時に行っていく必要があります。管理職の判断を仰ぐようなケースでは、その場に応じた役割分担の判断をすることも重要です。



小学校

養護教諭との連携はとても大切です。けがの状態によっては、養護教諭に対応を任せるケースもあります。ただし、事後の情報交換は忘れずに行っています。

けがが原因で思いの行き違いとなることもあるので、子ども同士、保護者同士の心のケアにも心がけます。



共通事項

保護者の立場に立って行動を！ 参考例

- 園や学校の救急処置体制のマニュアルに応じて対応します。
- けがの状態によって園や学校で治療するか病院に連れて行くか、救急車を呼ぶかを判断します。
- 病院に連れて行く場合
 - ①保護者に連絡
 - ②状態と状況の説明（いつ、どこで、どのようなけがか、現在の状態等）
 - ③保護者の同意に基づいて受診場所を決定
 - ④保険証の持参を依頼
- ※ 保護者には、簡潔に事故の状況を連絡し、心理的動揺を与えないようにします。
- ※ 状況を伝える際、「大丈夫だとは思いますが…」「このくらいは、心配ありません。」といった不用意な言葉は慎むようにします。
- 事故発生時より時間を追って詳細に記録をとっておきます。
- その日の夕方、電話で様子を聞き、けがの様子によっては、家庭訪問をします。
- けがをさせた場合は、相手の保護者にも連絡します。そのときの状況や様子を説明し、対応は家庭に任せます。
- 事後指導等を全体・個別で行います。安全指導として、事故が起きた原因や対処について検討し、再発防止に努めます。

★支援のポイント

まずは、けがをした本人の安全確保。そして、周りの子どもと保護者のケアにも心がけています。落ち着いて、冷静に対応したいものです。

ケース③ 子ども同士で折り合いがつかないときは、 どのように対応していますか？

幼稚園での自己主張のぶつかり合いは、ほしい遊具が重なって取り合いになったり、自分の意見をうまく言葉で言えないことによりけんかになったりといったことから発生することが多くあります。

小学校での自己主張のぶつかり合いは、休み時間や放課後に起こることが多く、教師の目の届かないところで多く発生するのが特徴です。

共通点

- ・自己主張のぶつかり合いによる葛藤などを通して人とのかかわり方や社会性を学びます。

発見した直後の対応

幼稚園



まずは、幼児がお互いに自分の思いを話せているか見守ってあげるといいね。ただし、手が出たりして、けがをしそうな場合はすぐに止めます。

小学校



トラブルの解決方法を探り、教師が手助けをしながら、まずは自分たちで解決するように促してみます。

気持ちを「ことば」にしよう！



十分に言葉で伝えることができている場合は、教師が気持ちを聞き出して、相手に分かるように伝えてあげることが大切です。時には、お互いの気持ちが分かるように代弁してあげることも必要です。

かかわっている児童の話を一一人ひとり、じっくりと聞いてあげます。加害者・被害者を決めつけず、双方に状況や原因を同じように聞くことが大切です。

事後の対応(保護者等)について



保護者にもけんかのいきさつを伝えて、トラブルを通してお互いの思いに気づき、コミュニケーション能力や社会性が育っていくことを理解してもらうようにします。

担任だけで解決できない時には、学年団や教育相談担当、管理職に相談し、適切な対応策を探りましょう。困った時は、組織で動くことが大切です。こうしたケースでは、記録をとっておくことも必要です。
子どもはもちろん保護者にも不満が残らないように配慮します。

★支援のポイント

保護者が、思うようにかかわれない場合は、それぞれの思いを聞いてあげる場を設けたり、複数の教師で解決策を考えたりして、双方が納得いく解決策をみんなで探ります。

ケース④ 保護者からの相談を受けたときは、 どのように対応していますか？

保護者からの相談といっても、いろいろなケースがあるので、ケースに応じた適切な対応が必要となります。

共通点

- ・対応は速やかに、相談時には、保護者の意見を否定しないでじっくりと聞き、相談の内容を正確に把握します。
- ・担任一人で解決しようとせず、連携を取り合い、複数での対応や組織としての対応をします。

話をじっくり聞こう！

幼稚園

保護者からの不安を訴えている時には、保護者の話を聞き、気持ちを受け止め、丁寧に対応をします。



トラブルの相談の時には、状況などの確認をし、事実を伝えて、相手が納得いくような対応をします。普段から小さな疑問や不安にきちんと対応をします。

小学校

できるだけ早急に、直接話を聞ける時間を設けるようにします。教室や相談室など保護者が話しやすい雰囲気のある場所を選び、保護者の言いたいこと、伝えたいことをじっくりと聞きます。

寄り添うように席を隣にして保護者が安心できる位置にする配慮なども必要です。

信頼関係を重視し、一緒に解決策を考えます。



その後の対応について

日ごろから、何でも話せるような雰囲気づくりに努めています。送り迎えの時も、挨拶だけでなく、担任からできるだけ保護者に声をかけ、話をするようにしています。



小学校に向けての不安を抱えている保護者には、不安なことは何かを具体的に聞き、気持ちを受け止めます。また小学校にも保護者の姿や不安なことを伝えておくようにします。

教育相談コーディネーターやカウンセラーに相談して、より適切な対応ができるようにしていきます。

状況によっては、ケース会議なども考え、それでも対応できない内容の場合は、他機関との連携なども考えていきます。

対応後、しばらく様子を見ていきます。



★支援のポイント

まず、保護者との信頼関係を築き、保護者の不安や悩みをじっくり聞くことです。ケースの内容によっては、複数の教員で対応することも大切です。

ケース⑤ 気になる行動が見られたとき、どのように対応していますか？

教師からみて気になる行動が見られたときは、客観的に捉え、情報を教師間で共有し、適切な対応をする必要があります。

多面的な角度からの情報収集

幼稚園

気になる行動の背景について多面的に探っていきます。

家での様子や最近の様子を聞きながら、園での様子を知らせ、指導の参考となるようなことがないか考えます。

保護者も困っているようであれば園での対応の様子を伝えて、参考にしてもらうこともあります。

小学校

気になる行動についてその経過をまとめ、資料にしていくと客観的に捉えることができます。

集団生活に支障がある場合は、保護者に連絡し、面談時間を設けて話し合います。

担任のみでは解決できない場合は、学年・児童指導担当・教育相談コーディネーター・管理職に相談をします。

保護者やかかわる人との共通理解

送り迎えの時などの時間を見つけて、保護者に直接声をかけます。その際、教師の思いや考えよりも、具体的に園であった出来事について伝えるようにすると保護者の理解を得やすいです。

気にかかる点やお願いをするときは、保護者が受け入れやすい雰囲気づくりに努め、保護者が悩みを打ち明けることができるような場をつくるのが大切です。

ケース会議を開いてもらって、いろいろな人の視点から多面的に子どもを捉え、客観的な情報をつかみます。そこで、誰が、いつ、どこで、いつまで、何を、といった具体的な支援策を関係者同士で共通理解します。

子どもが苦戦していることに対する共通の支援方針をもつことが大切です。

懇談会等で、全体の課題として、生活面・学習面などについて、協力を求めることもあります。

★支援のポイント

保護者に協力を願って、個別支援計画「支援シート」を作成し、保護者と学校等が共に解決していくという姿勢でかかわっていくようにしています。必要がある場合は専門の機関とも連絡を取り合い、ケース会議等を行います。

ケース⑥ 個の育ちを保護者に伝えるとき、どのように伝えていますか？

個の育ちを家庭に伝えることは、幼稚園、小学校ともに、とても重要なことです。一人ひとりの子どもの良さや頑張りを認め、伝えることで、園や学校での教育についての理解を得ることができます。

直接「ことば」で伝えよう！

幼稚園

幼稚園では、送り迎えの時に、保護者の方と直接会話できる機会をもつことができます。そうした機会をとらえて、その日に見られた育ちをその日のうちに伝えることができます。

小学校

直接子ども本人を賞賛したり、賞などを出したりして、よさを伝えていきます。ケースによっては、『先生に褒められた』と、家の人にお話ししましょう。」と伝え、自分で保護者に伝えさせることもあります。

連絡帳でも園での様子を伝えることができます。なかなか会えない保護者には有効な手立てだと思います。

家庭訪問や教育相談日、学級懇談会の後などに直接保護者にお話します。

電話や連絡帳で伝えることもありますが、取り立ててお話すより、何かのついでに伝える方が、自然な形で話ができるよいいということもあります。

全体に向けて伝えることも・・・

学級懇談会で子どもの様子を伝えたり、園だより、クラスだよりでクラス運営の仕方や行事予定、子どもの姿やクラスでの活動の様子、子どもの会話などを文章や写真、イラストなどで具体的に伝えたりしています。ただし、子どもの写真を載せる場合は、個人情報保護のために、保護者の許可を得るようにしています。

毎学期の通信票では、子どもの成長を記述し、伝えます。長い目で見たときの成長を伝えることができます。

学級通信でクラス全体に向けて伝えることもあります。

★支援のポイント

どの子にもその子なりの育ちがあることを認めて、それぞれの子どものよさを保護者とともに見付けていくようにしていきます。

ケース⑦ 保育参観、保育参加、学習参観では、 どのように対応していますか？

保育参観、保育参加、学習参観は、保護者が直接、保育や授業に参加する貴重な時間です。園児や児童の様子を知ってもらうとともに、園や学校の教育への理解を一層深める機会でもあります。

園・学校の教育への保護者の理解を

幼稚園

保育の基本となる「教育計画」に沿って、見通しをもった保育を実践しています。

保護者にも園の教育について説明し、それを踏まえて、日々の保育、行事活動などを参観し、発達過程や子どもの成長を見てもらうようにしています。

園の保育を理解してもらい、子どもの成長している姿を見てもらう機会としています。また保護者同士をつなぐ場としても考えています。

小学校

学校目標、学年目標、学級目標を示して、教育の方針について理解してもらえるようにします。そのためには、授業を見ていただくことが一番重要であると考えています。

学習参観日にクラス懇談会を設けています。保護者の方と直接話せる大切な機会と捉えています。

留意していること

保護者同士のつながりをサポートする場として、保護者同士が子育てを通して支え合う関係を築くことができるようにしたいと考えています。

保育参加は、年間を通して家族や地域の方に来ていただき、子どもの様子を見るだけでなく、子どもと一緒に活動を楽しみ、園での生活を体験し園への理解をしてもらいたいと考えて実施しています。

それぞれの児童が活躍している様子を参観してもらえるように、指名する順番や回数など、工夫して授業に臨んでいます。

参観予定の学習内容や見ていただきたい点など事前にお知らせして、多くの保護者に参加していただけるように工夫しています。

保護者に参観のマナーを守っていただくように声をかけることもあります。授業の妨げになったり、他の方の邪魔になったりすることのないようお願いします。

★支援のポイント

子どもたちのありのままの姿を見てもらうよい機会と考えています。普段の子どもたちの様子が自然に出るよう工夫し、子どもの成長の様子を見てもらいます。

ケース⑧ 家庭訪問のときに、どのように対応していますか？

家庭訪問は、子どもの家庭環境を知り、指導に役立てるために実施しています。

共通事項

- 幼稚園、小学校ともに、保護者との理解を深め合い、保育や指導に役立てるため、聞く姿勢、寄り添う姿勢を大切にしています。
- 子どもの家庭での様子や家庭の教育方針や願いを聞き、子どもの理解を深められるようにします。また、園や学校での様子についても伝えます。プライバシーについては、厳守します。
- 保護者から家庭での子どもの様子について教えてもらっています。
- 保護者からの子育ての悩み、不安などの相談等についても対応しています。即答できないときは、後日、担当者や管理職等と相談の上、答えるようにします。
- 話の最中にはメモを取らず後で整理します。共通理解しておくことがあれば、他の職員にも伝えます。



幼稚園

留意していること

小学校

子どもの家庭環境や登降園時の道のり、危険箇所等を知ることが目的に行っています。

また連絡なしで欠席した場合など安否の確認をするための手立てを確認し合うようにしています。

1軒あたりの時間を厳守するようにしています。そのために、玄関先での話を原則として、どの家庭にも同じような時間配分ができるようにしています。

また、学校として茶菓の接待は、受けないことを事前にお知らせしています。



★支援のポイント

子どもをより理解し、今後の保育や指導に生かしていくために行います。家庭訪問という形式でなく地域訪問という形をとっている地区もあります。また、同時期に実施するだけでなく、必要に応じて家庭訪問を行います。

II 遊びを通した『まなび』と各教科等の中での『学び』をつなぐ

幼稚園では、幼児の自発的な活動としての総合的な遊びを通して『まなび』が芽生えていきます。一方、小学校では、各教科等の学習の中で『学び』が培われていきます。

こうした発達の段階に即した学びの連続性が、今後は重要な視点となってきます。幼稚園での総合的な遊びを通して芽生えた『まなび』は、小学校の各教科等の学習の基礎となる要素につながっており、遊びを通した『まなび』の要素が各教科等の学習内容にどのようにつながっていくかを互いに理解し合うことはとても大切なことです。子どもたちが学ぶ意欲を高め、学習に興味・関心をもって臨むためにも、両者の教育課程の段差を少なくしてなめらかに接続していくことが大切です。

そこで、接続期の教育課程の作成が必要となってきます。文部科学省より平成22年11月11日に「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」が出されました。その中に幼小接続における教育課程編成・指導計画作成上の留意点が記載されています。その一部を抜粋して8つの事例のあとに載せてあります。

なめらかに接続するために (例)

小学校入学当初には合科・関連的な指導を取り入れ、幼稚園での遊びを生かしながら無理なくつなげていく。

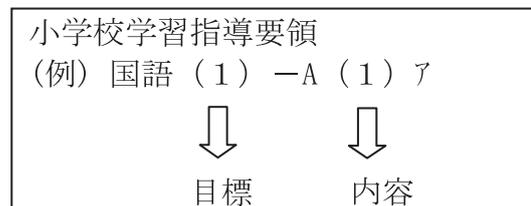
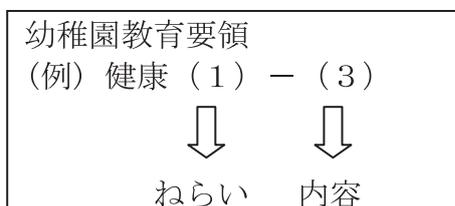


小学校において45分の学習時間を、入学当初は例えば15分ずつに分けて行うなど、生活のリズムに段階的に慣れていくようにする。

8つの事例は、幼稚園での遊びを通した『まなび』を、保育内容の5つの領域ごとに分析し、それが小学校の各教科等にどのようにつながっていくかを表しました。また、内容に関連する幼稚園教育要領や小学校学習指導要領についても記号で表しました。(*)

異校種の学びの理解の参考としてください。

*記号の表し方 (次頁以降にある吹き出し内の英数字や片仮名の意味)



1. 幼児の遊びと各教科等の内容の援助と支援

事例① 砂遊び

●ねらい

- ・ 友達と楽しく活動する中で共通の目的を見だし、工夫したり協力したりする。

○内容

- ・ 友達とやりとりをしながら共通の目的やイメージをもって遊ぶ。
- ・ 土や水、泥の感触を全身で感じ思いきり楽しむ。
- ・ 支度や片付けなど自分たちで場を整える。

5 領域との関連 (どのような「まなび」があるか)

表現 (1)-(1)

- ・ 砂だけでなく泥水で遊ぶ体験から色や形、手触りなど、水の特性や変化の不思議さを感じている。

言葉 (1)-(2) (2)-(4) (8)

- ・ 遊びを進める中で互いに考えや思いを言葉で伝え合っている。
- ・ 自分の感情や意志を言葉で表現したり応答したりその言葉を聞いたりすることを通して言葉を獲得している。

環境 (1)-(1)

- ・ 自分の興味に沿って自由に遊ぶ楽しさや未知のものに驚いたり感動したりする経験をしている。



健康 (2)-(2) (3)-(7)

- ・ 土や砂、水遊びは開放感を感じ、身体全身を使って遊ぶ。
- ・ 楽しんで遊んだ後には片付けや着替えがある。

人間関係 (2)-(4) (7) (10)

- ・ イメージを共有しながら遊ぶ中で友達の良さに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
- ・ 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- ・ 個数の決まった共同の用具をやりとりして使う中では思いがうまく伝わらなかったり、物を取り合ったりすることでけんかになることもあるが、そのやりとりを通して相手の思いに気付いたり、相手の思いを受け止めたりすることができる。

活動の流れ	環境・教師の援助	教材、教具
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と誘い合って砂場に向かう。 ・ 用具を出す。 ・ 砂遊びを楽しむ。 ・ 水を汲みに行く子や穴を掘る子など自分たちで役割を分担している。 ・ 用具を片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂遊びの楽しさや気持ちよさを味わえるように事前に必要な用具や場を整えておく。遊びを十分に楽しめるよう時間を確保する。 ・ 思いきり遊びを楽しめるように汚れてもよい服装で始める。 ・ 考えやイメージしていることを共有して遊べるようにそれぞれの子の思いが遊びの中で表現できるように手助けする。 ・ 周りの子にその子の良さや頑張りを気付かせていく。 ・ 活動の過程で幼児一人ひとりがどれだけ遊び、充実感や満足感を得ているか捉える。 ・ 片付けでは教師も一緒に動き、モデルになるようにする。 ・ 遊びの余韻を大切に次回も楽しみにできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂場 ・ たらい ・ 水 ・ バケツやスコップなど砂場用具

各教科等との関連

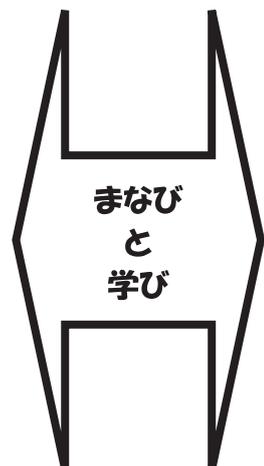
図画工作

「しぜんとなかよし」(1年生)

「すきなばしょで」(1年生) (2)-A(1)ウ

主な学習活動

- ・身近な場所を使って、積んだり、描いたりする全身的な活動を楽しむ。
- ・身の回りにある材料を使って好きな形を作り出す。
- ・できつつあるものやできたものを互いに認め合う。



生活

「みんなともだち」(1年生)

「なつともだち」(1年生)

「あきともだち」(1年生)

(2)-(1)(6)

主な学習活動

- ・学校やその周りの自然、人々、施設等に関心を持ち、楽しく学校生活を送る。
- ・身近な自然を利用したり身近にある物を使ったりして遊びや遊びに使う物を工夫して作り、そのおもしろさや自然の不思議さに気付きみんなで遊びを楽しむ。

国語

「みんなに つたえよう」

(1年生)

(1)-A(1)ウエ

主な学習活動

- ・自分のことをはっきりした発音で話す。
- ・大事なことを注意して聞くことができる。

事例② ままごと遊び

●ねらい

- ・友達とイメージを共有し、相談したり協力したりしながら遊びを進める。

○内容

- ・それぞれの持ち味を生かし合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- ・自分のイメージや考えを言葉や文字などで伝え合う。
- ・互いに教え合いながら自分たちで問題を解決しようとする。

5領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (2)-(5) (3)-(8)

- ・自分のイメージする役になりきり、動きや言葉で表現したり演じたりする楽しさを味わっている。
- ・身近な物を利用して、遊びに必要なものを作ったり、見立てたりしている。

環境 (2)-(7)

- ・保育室の用具や作った物を自分たちで構成しながら遊びを進めている。



人間関係 (2)-(5) (8) (10) (3)-(11) (12)

- ・ごっこ遊びは友達とのかかわりを楽しむ遊びであり、友達とのやりとりを通してかかわりを深めている。
- ・思いがうまく伝わらない体験や葛藤体験を通して相手の思いに気付き、自分の気持ちとの折り合いをつけながら遊びを進める。
- ・用具を共有して使うことで物を大切にできる気持ちをもったり自分たちでルールを作り守ろうとしたりする。

言葉 (3)-(6) (10)

- ・ままごと遊びでは一日の流れを自分たちで作りに出すので自然と「おはよう」「おやすみなさい」などの挨拶が頻繁にやり取りされている。例えば母親役になった子は日ごろ母親が使っている言葉を再現する。
- ・年長後半になると文字に興味をもち、文字でやり取りする楽しさも味わっている。

健康 (1)-(1) (3)-(10)

- ・使える用具を選び、好きな場所に配置することを楽しんだり好きな役になりきって友達との触れ合いを楽しんだりしている。
- ・物や用具の置き方では安全に気を付けることも学んでいる。

活動の流れ	環境・教師の援助	教材・教具
<ul style="list-style-type: none"> ・用具を自分たちの好きな場所に運ぶ。 ・ままごと遊びの中で文字や名前を書いて楽しむ。 ・自分たちで役を決めたり真似たりしながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの状況や安全面に気を配り、落ち着いてじっくり取り組めるような時間と場を確保する。 ・文字を使う喜びを味わっているが、読み書きする関心や能力は個人差が大きいため、一人ひとりに配慮して楽しめるようにする。 ・子どもたちの要求に応じて素材や用具を提案したり出したりしながら演じる楽しさを味わえるようにする。 ・それぞれの思いやイメージが共有し合っているかを把握し、必要に応じて気付かせたり考えさせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積み木 ・ござ ・ままごと用具 ・段ボール ・紙 ・マーカー、クレヨン ・はさみ

各教科等との関連

国語

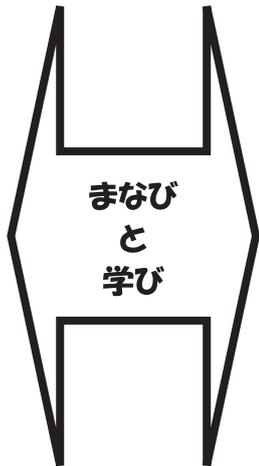
「よんでね きいてね」(1年生)

「えにつきを かこう」(1年生) (2)-B(1)アイ

「はなしたいな ききたいな」(1年生) (1)-A(1)アエ

主な学習活動

- ・自分の体験を簡単な文で書き、手紙を書くことの楽しさを感じ取る。
- ・休み時間にしたことを思い出し、友達に話したり全員の前で発表したりして感想を伝え合う。
- ・生活の中の出来事を絵と文で表現する。



生活

「みんなともだち」(1年生) (2)-(1)

「はるとともだち」(1年生) (4)-(8)

「あきともだち」(1年生)

主な学習活動

- ・学校やその周りの自然、人々、施設等に関心を持ち、楽しく学校生活を送る。
- ・身近な人々、社会および自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し考える。

事例③ ドッジボール

●ねらい

- ・友達とルールを守りながら身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

○内容

- ・友達とチームを作って競い合うことで喜びや悲しみを共感し合う。
- ・思いを言葉で表現したり分からないことを尋ねたりする。
- ・友達の良さを認め合いながら遊ぶ。
- ・ルールの大切さに気づき、守ろうとする。

5領域との関連 (どのような「まなび」があるか)

表現 (2)-(3)

- ・共に活動する中で、歓声を上げたり、喜びを共有したりしている。
- ・感動を相手と共有することでさらに感動が深まる。

言葉 (2)-(4)

- ・遊びを進めていく過程で自分の感情や意志を伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを自然に行っている。そうした中で言葉を獲得し、さらには言葉を交わす喜びを味わっている。

環境 (3)-(8)

- ・ドッジボールではチームを作ったり勝ち負けを外野の数で決めたりすることから数の多い、少ない、同じ等の感覚を養っている。



健康 (2)-(2) (3)

- ・年長時期になると仲間同士心を通わせながら楽しんでいる。
- ・運動遊びの中でも高度な遊びで、取ったり投げたり逃げたりと瞬時に判断して動き、身体全身を使っている。
- ・寒い日でもゲームが始まるとすぐに身体が温まり、継続して遊ぶことでより動きがダイナミックになっていく。
- ・楽しさを感じた子は進んで戸外に出て遊ぶようになる。

人間関係 (2)-(5) (3)-(11)

- ・ルールのある集団遊びは他の幼児とやりとりをしながら遊びを進めていくため、遊びを進めていく過程で試行錯誤しながらかわりを深め、喜びや悲しみを共感し合うことができる。

〈クラス活動で行うドッジボール〉

活動の流れ	環境・教師の援助	教材・教具
<ul style="list-style-type: none"> ・園庭に帽子をかぶって集まる。 ・ルールを確認する。 ・ゲームスタート① ・勝敗確認 ・ゲームスタート② ・勝敗確認 ・終了 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を始める前にラインを引いておく。 ・一人ひとりの様子から活動前の参加意欲や態度を捉える。 ・これまで行ってきた転がしドッジボールとの違いについてルールを分かりやすく教える。 ・ゲームを始め、実際にやりながらルールを伝えていく。 ・子どもたちの声や様子からルールを柔軟に設定し、今の実態にあったクラスのルールを作っていく。 ・ゲームをもう一度行い、始めたときの子ども様子との違いや参加意欲を捉える。 ・ゲームを終えてクラスに戻るまでに個々に声をかけ、次への意欲につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール ・ラインカー

各教科等との関連

体育

「ボールゲーム」「ボール投げゲーム」(1年生) (1)-E(1)ア
「ドッジボール」(2年生) (1)-E(1)ア, (1)-E(3)

主な学習活動

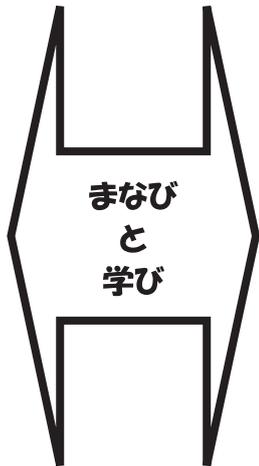
- ・ボールを転がしたり、投げたりするドッジボール。
- ・運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりする。
- ・簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりする。

算数

「かずとすうじ」(1年生)
(1)-A(1)イ

主な学習活動

- ・10までの数の読み方、書き方、数の系列、大小を理解する。



道徳

「のこされたボール」(1年生) 2-(3) 4-(1)

主な学習活動

- ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする。

事例④ 運動会

●ねらい

- ・ 目的に向かって友達と力を出し合い、やり遂げた満足感を味わう。

○内容

- ・ 友達と相談したり思いを伝え合ったりすることを通して相手の気持ちを考える。
- ・ 仲間と協力してやり遂げる達成感を味わう。
- ・ 十分に身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

5領域との関連 (どのような「まなび」があるか)

表現 (2)-(4) (3)-(8)

- ・ 運動会のダンスは保護者に見てもらいたい気持ちからいっそう表現したい気持ちを持ち、身体全身を使って伸び伸びと表現する楽しさを味わっている。

言葉 (2)-(3) (4)

- ・ たくさんの種目を体験していく過程では教師の話に注意深く聞いたり分からないことを尋ねたりすることを繰り返している。

環境 (1)-(2) (3)-(11)

- ・ 運動会の種目ならではのいろいろな遊具や用具に触れ、関心をもつ。
- ・ 園によっては国旗に親しむ機会にもなっている。



健康 (2)-(2) (3) (3)-(10)

- ・ 戸外で十分に体を動かし触れ合う運動会の遊びは単に体を動かして遊ぶ楽しさだけではなく自分の体に関心をもつことや安全に気を付けて動くことなど様々なことを知る機会にもなる。

人間関係 (2)-(5) (7)

- ・ 競い合ったり力を合わせたりする体験を通してかかわりを深め、喜びや悲しみを共感し合うことができる。
- ・ 少し難しいことや苦手なことも友達と一緒に遊びたい気持ちが勝ることで挑戦する意欲につながっていく。

〈みんなでダンス～玉入れ〉

活動の流れ	環境・教師の援助	教材・教具
<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス合同でダンスを始める。 ・ 縦割りチームの玉入れをする。 ・ 作戦タイムを設ける。 ・ 振り返り。 ・ 自ら遊ぶ活動へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動前にトイレや衣服の調節、靴をきちんと履いているかを確認する。 ・ できるだけ運動会当日と同じ流れで行い不安を少なくする。 ・ 個々の活動への取り組みの様子を捉える。 ・ 普段の遊びの中でも異年齢のかかわりが生まれやすいようにそばにいる異年齢児のよさや名前を気付かせていく。 ・ 幼児同士意見を伝え合える時間を作り、意欲を高める。 ・ 運動会への意欲が高まるよう頑張りを認めたり励ましたりしていく。 ・ 自ら遊ぶ活動の中でも運動会種目の競技が遊びとして行えるよう用具や場を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音響 ・ 玉入れ用 (ポール、紅白玉)

各教科等との関連

音楽

「みんなであわせて」(1年生)
「うたとともだち」(1年生) (2)-A(1)イ

主な学習活動

歌い方や身体表現を工夫し、友達と一緒に表現する喜びを感じる。
楽曲の気分を感じ取って聞いたり、工夫して表現したりする。
リズムによって身体表現やリズム表現を楽しむ。

体育

「リズム遊び」(1年生) (1)-F(1)イ
「走の運動遊び」(1年生) (1)-C(1)ア

主な学習活動

- ・リズムに合わせてみんなで楽しく踊る。
- ・距離や方向などを決めて走ったり、手でのタッチやバトンをパスする。

特別活動

学校行事
「健康安全・体育的行事」1-(3)

主な学習活動

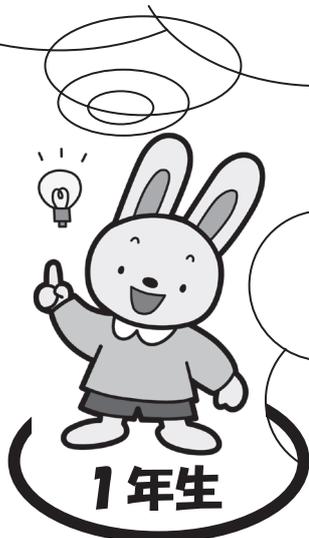
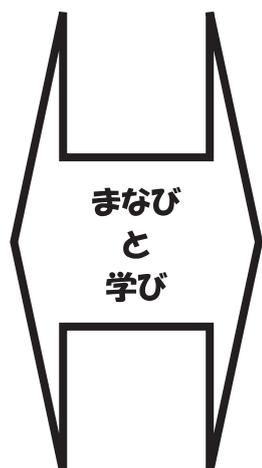
- ・心身の健全な発達や健康の増進などについての関心を高め、安全な行動や規律のある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行う。

算数

「10よりおおきなかず」(1年生)
(1)-A(1)ウ

主な学習活動

- ・20までの数について構成と読み方書き方を理解する。
- ・20までの数の系列、大小関係を理解する。



事例⑤ 飼育栽培活動

- ねらい・身近な小動物に親しみをもって接し、触れ合う中で、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。
- 内容
 - ・園庭の畑で友達と一緒に虫を探し、捕まえてきた虫に触れたり、図鑑や絵本などで調べたりしながら、友達と伝え合ったりする。
 - ・生き物や自然に触れ、発見や感動をする機会を作る。

5領域との関連（どのような「まなび」があるか）

健康 (2)-(2) (3)-(10)

- ・土の感触を味わい、昆虫の発見などで夢中になり、実体験の中で体を動かす。
- ・危険な場所が分かり、用具を安全に使う。

環境 (1)-(1) (5) (3)-(8)

- ・土や昆虫など、自然とかかわる中で、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。
- ・自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- ・環境を通して、数量や大きさなどに関心をもつ。

人間関係 (2)-(1) (3)-(9)

- ・友達と一緒に活動する楽しさや友達の良いところ、悪いところを知ること、新しい人間関係ができる。



言葉 (1)-(4) (2)-(8)

- ・友達や先生に自分の感情や意思を伝え、相手の考えを聞き、応答ができる。また言葉を聞くことを通して言葉を獲得する。
- ・友達や先生とかかわる経験を通して、イメージや言葉を豊かにする。

表現 (2)-(3)

- ・自然と触れ合う中で感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

活動の流れ	環境・教師の援助	教材
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生が来園する。 ・今日の芋ほりの苗植えの確認をする。 ・畑に苗植えをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・畑の手入れをする前に安全チェックをしておく。 ・サツマイモの苗など野菜は身近なもので育ちやすい物を用意する。 ・小学生とのかかわりをもてるように教師が仲立ちをしながら活動が進められるようにする。 ・実体験を通して思ったこと感じたことを言葉で表現し、共感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャベル ・バケツ ・観察ケース ・空き箱 ・昆虫図鑑 ・絵本

各教科等との関連

国語 「しらせたいな、見せたいな」(1年生) (1)-A(1)イ

主な学習活動

- ・学校を探検して、そこにいる人に挨拶をし、知りたいことを尋ねる。
- ・探検して知らせたいことを選び、友だちに分かるように話す。
- ・友だちの大事なことを、落とさずに聞く。
- ・探検した場所の名前などを書く。
- ・質問や挨拶をするときに、丁寧な言葉で話す。

道徳 「ハムスターの赤ちゃん」(1年生)

3-(1)

主な学習活動

- ・動物の赤ちゃんについて知っていることを話し合う。
- ・資料を読み、ハムスターの赤ちゃんについて話し合う。
- ・生命誕生についての話を教師から聞く。

生活 「いきものだいすき」

(1年生) (2)-(7)

主な学習活動

- ・動物に触れたり餌をやったりしながら、適切にかかわる。
- ・動物の世話の仕方について話し合い、実際に世話をする活動を通して、気付いたことや感じたことなどを工夫して表現する。
- ・校庭で生き物を探したり遊んだりする。
- ・飼育したり観察したりして、発見したことを友達に知らせる。

まなび
と
学び

1年生

図画工作

「どうぶつむらのピクニック」

(1年生) (2)-A(1)ア

主な学習活動

- ・紙の箱の形からいろいろな動物を想像する。
- ・思いついた動物を工夫してつくる。
- ・作品を見せ合う。

体育 「わくわく動物ランド」

(1年生)

(1)-F(1)ア

主な学習活動

- ・鳥や昆虫などいろいろな題材の特徴や様子を「〇〇が〇〇しているところ」のような具体的な動きで捉え、即興的に踊る。
- ・運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりする。

事例⑥ お店屋さんごっこ

- ねらい ・考えを出し合ったり、イメージを伝え合ったりしながら友達と一緒に遊びを進めていく。
- 内容 ・遊びに必要な物や場を友達と一緒に考えて準備する。
・いろいろな材料や道具を使い、より本物らしく作ることを楽しむ。

5領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (1)-(1) (2)-(5)

- ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
かいたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。

環境 (2)-(7)

- ・身近な物に親しみをもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。



健康 (1)-(4)

- ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

人間関係 (2)-(8) (10)

- ・友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- ・友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- ・友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。

言葉 (2)-(4) (10)

- ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- ・日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

活動の流れ	教師の援助と環境の工夫	教材
<ul style="list-style-type: none"> ・美術展見学に行く。 ・好きな遊びをする。 ・ままごと遊びでケーキづくりをする。 ・工夫していろいろなケーキを作る。 ・ケーキ屋さんごっこのやり取りをする。 ・ケーキ屋さんごっこで必要なものを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中合同美術展を見学に行き、小学生の立体作品を見る機会を作り、興味や関心がもてるようにする。 ・蒸しパン作りで余った紙製ケーキ型をままごとコーナーに置いておく。 ・遊びの仲間に入りながら教師もケーキを作ってみる。 ・教師もお客さんになり、やり取りを楽しむ。 ・ケーキ屋さんに必要なもの（看板、エプロン、頭に付ける物、ケーキの箱、お金等）に気付いたら、幼児と一緒にどのように作ったらよいか考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毛糸・フェルト ・紙粘土・ホイップ粘土 ・紙製ケーキ型 ・アイロンビーズ ・ケーキの箱 ・看板になる紙 ・不織布・針・糸 ・すずらんテープ ・セロテープ ・ガムテープ

各教科等との関連

国語

「おみせやさんごっこをしよう」(1年生)

(2)-B(1)アエ

主な学習活動

- ・教材文を読んで遊び方の内容を知る。
- ・売る物の良さが分かるように宣伝のチラシの文章を書く。
- ・客やお店の人の役に分かれてやり取りして、「おみせやさんごっこ」を楽しみながら物の名前の関係を知る。

体育

「ボールゲーム」(1年生)

(1)E(1)ア, E(3)

主な学習活動

- ・進んでボールゲームを楽しむ。
- ・分担して準備や片付けをする。
- ・ルールを工夫して作る。

生活

「あきのあそび」(1年生)(2)-(6)

主な学習活動

- ・落ち葉や木の実などの秋の自然で好きな物を作って遊ぶ。
- ・身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫して作る。
- ・遊び方を工夫しながらみんなで遊びを楽しむ。

まなび
と
学び

1年生

道徳

「はしのうえのおおかみ」(1年生)

2-(2)

主な学習活動

- ・いじわるする気持ち良さやさしくする気持ち良さの違いを感じ取る。
- ・人(友達)にしたい親切を考えようとする。

図画工作

「ならべて ひろげて」(1年生)

(2)-A(1)ウ

主な学習活動

- ・身の回りのいろいろな材料を並べてみる。
- ・友達の並べている物とつなげてみる。
- ・並べ方を工夫して楽しむ。

事例⑦ 色水遊び

- ねらい
 - ・友達と色水を混ぜあい、いろいろな新しい色水を作り出す。
 - ・身近な物や数量などの興味や関心をもつ。
- 内容
 - ・日常生活や遊びの中で身近な物や数量に興味、関心をもつ。
 - ・友達と物や教材に興味をもってかかわったり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

5領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (1)-(1) (2)-(5)

- ・色が変わる楽しさに気付いたり、感じたりなどして楽しむ。
- ・色水に親しみ、いろいろな色を工夫してつくる。

健康 (1)-(2)

- ・健康な心と体を育てる。

言葉 (2)-(3)

- ・自分の気持ちや考えていることを言葉で表現し、相手の話を聞く。



環境 (1)-(2) (3)-(8)

- ・子どもが日常の生活に興味や関心をもってかかわり、好奇心や探究心をもつ。
- ・日常生活の中で数量や図形、文字、標識などに関心をもつ。

人間関係 (3)-(1)

- ・友達と楽しく遊ぶ中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。

活動の流れ	教師の援助と環境の工夫	教材
<ul style="list-style-type: none"> ・色水遊びを友達と見つける。 ・自分の好きな色を使い、ペットボトルに絵の具、水を入れる。 ・作った色水を友達と見せ合う。 ・友達と色水遊びをし、色々な絵の具を混ぜたりしながら色水遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な用具を取り出しやすいように用意しておく。子どものごっこ遊びからペットボトル倒しを考える。 ・中身のないペットボトルがすぐに倒れてしまうわけを子どもと一緒に考える。 ・子どもがジュース作りを楽しめるように、子どもの発想や意見を尊重し、子どもだけで遊びを広げたり、深めたりできるように言葉がけをする。 ・遊びの中でルールのある楽しさに気付いていけるようにする。 	ペットボトル(大・小) ペットボトル(四角・丸型) 絵の具 筆

各教科等との関連

国語

「すきなもの、なあに」(1年生)

主な学習活動

(1)-A(1)オ, (2)-B(1)ウ

友達と尋ね合い、答え合って、口頭での正確なやり取りを楽しむ。
尋ねたことをもとに書き、みんなに文章で知らせることを楽しむ。

算数

「かたちあそび」(1年生)

主な学習活動

(3)-C(1)ア

身の回りの物を使ったいろいろなものを作って楽しむ。
形の特徴で仲間わけをする。
形をうつして、絵を描き、形を構成する。

生活

「わたしのあさがお」(1年生)

主な学習活動

(2)-(7)

あさがおの種をまく。
自分で育てたあさがおを観察する。
花の様子や特徴に気付く。
色水や押し花、絵や写真にしてみんなと楽しむ。

まなび
と
学び

1年生

体育

「遊具の遊び」(1年生)

主な学習活動

(2)-B(3)

今できる遊びを楽しむ。
工夫して遊びを楽しむ。
約束や決まりを守って仲良く遊ぶ。

図画工作

「うつして あそぼう」(1年生)

主な学習活動

(2)-ア

形や色を楽しみながら、型押しやこすり出しなどをして楽しむ。
クレヨンやパステル、絵の具を使って自分の思いを形や色で表す。
作品を飾って鑑賞する。

事例⑧ 劇遊び

- ねらい
 - ・学級の友達と共通の目的に向かって遊びを進めていき、やり遂げた満足感を味わう。
- 内容
 - ・絵本の登場人物の心情を汲み取ったり共感したりし、役になりきって演じる楽しさを味わう。
 - ・劇に必要なものや方法を友達と一緒に考え、作ったり工夫したりする。

5領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (3)-(6)(8)

- ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。
- ・劇を通して、音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

健康 (1)-(4)

- ・劇作りの活動に、楽しんで取り組む。



言葉 (2)-(2) (3)-(9)

- ・したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- ・絵本の登場人物に興味をもち、その心情を想像する楽しさを味わう。

人間関係 (1)-(4) (2)-(8)

- ・劇遊びを楽しみながら、劇を最後までやり遂げようとする気持ちをもつ。
- ・友達と楽しく活動する中で、劇に必要なものや方法について、工夫したり協力したりする。

環境 (2)-(7)

- ・劇に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

活動の流れ	教師の援助と環境の工夫	教材
<ul style="list-style-type: none"> ・劇にしてみたい場面をごっこ遊びで遊ぶ。 ・必要な道具を作る。 ・なりたい役になって劇遊びをする。 ・友達の様子を見たり友達と一緒に劇遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・劇にしてみたい場面でごっこ遊びができるように、場を用意する。 ・毎日台詞を言ってごっこ遊びをする中で、必要な道具に気付いたら一緒に作っていく。 ・台詞は子どもたちがごっこ遊びで話していた言葉を取り入れ教師が組み立てていく。 ・一人ひとりが大事な役であり、みんなで力を合わせて頑張ることでクラスの劇が出来上がることを伝えていく。 ・友達の良いところ等を具体的に伝え、認めていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「11びきのねこ」の絵本・ダンボール・不織布・CD・CDデッキ ・綿・クレープ紙・模造紙・紙管・袋になる布・ポスターカラー・モール・すずらんテープ・セロテープ・ガムテープ・厚紙

各教科等との関連

国語

「おむすびころりん」「大きなかぶ」「くじらぐも」(1年生)

主な学習活動

(3)-C(1)ウ

- ・場面の様子を、想像を広げながら読む。
- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて声に出して読む。
- ・劇やペープサートなど取り入れながら音読発表会をする。

音楽

「いろいろなおとであそぼう」(1年生)

主な学習活動

(2)-A(3)ア

- ・身の回りの物を使って、いろいろな音を出してみる。
- ・さがした音を発表し合う。

生活

「できるようになったこと」

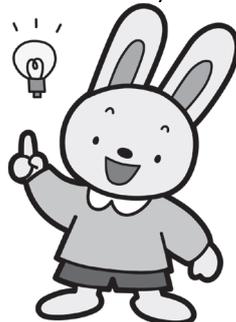
(1年生)

主な学習活動

(3)-(9)

- ・自分の一日を友達と比べ、やってみたいことを見つけ合う。
- ・この1年間で、できるようになったことを発表し合う。
- ・入学してくる1年生を迎える準備をする。

まなび
と
学び



1年生

図画工作

「こころをこめてプレゼント」(1年生)

主な学習活動

(1)-A(2)ア

- ・お世話になった人たちや新しい1年生に渡すプレゼントをつくる。
- ・材料や作り方を工夫して、楽しみながらつくる。
- ・作品をプレゼントする。

道徳

「ゆっきとやっち」(1年生)

主な学習活動

2-(3)

- ・資料から友達と仲よくし、助け合おうとする気持ちを読み取り、話し合う。

2. 幼小接続における教育課程編成・指導計画作成上の留意点 (教育課程編成上の留意点)

- 学びの基礎力の育成を図るため、幼児期（特に幼児期の終わり）から児童期（低学年）にかけては、「三つの自立」（学びの自立、生活上の自立、精神的な自立）を養うことが必要。

— 幼児期(特に幼児期の終わり)から児童期(低学年)にかけての教育においては —
学びの基礎力の育成を図るため、「三つの自立」（学びの自立、生活上の自立、精神的な自立）を養うことが必要である。

— 児童期以降の教育においては —
生涯にわたる学習基盤の形成、すなわち「学力の三つの要素」（「基礎的な知識・技能」、「課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等」、「主体的に取り組む態度」）の育成に特に意を用いなければならない。

— 幼児期の終わりにおいては —
学びの基礎力の育成を図るため、この時期にふさわしい「三つの自立」を養うことが求められる。児童期（低学年）においては、学びの基礎力の育成を図るため、この時期にふさわしい「三つの自立」を養うことを含め、教育活動全体を通じて「学力の三つの要素」を培うことが求められる。

— 幼児期から児童期にかけての教育においては —
自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない、小学校1年生などの教室において、学習に集中できない、教員の話が聞けずに授業が成立しない（いわゆる「小1プロブレム」）などの課題を抱えている学校が見られる。これらの課題は、幼児期の教育の責のみに帰することも、児童期の教育の責のみに帰することもできず、両者が課題を共有し、共に手を携えて解決のための取組を進めていかなければならない。



(指導計画作成上の留意点)

① 「人とのかかわり」における留意点

— 幼児期の終わり —

社会の構成員としての自覚をもって活動を始める重要な時期であることに鑑み、幼児の興味・関心や生活、協同性の育ち等の状況を踏まえて教職員が方向付けた課題を自分のこととして受け止め、相談したり互いの考えに折り合いをつけたりしながら、クラスやグループみんなで達成感をもってやり遂げる活動を計画的に進めることが必要。

— 児童期（低学年） —

幼児期における「人とのかかわり」の指導の状況や実際の子どもの発達や学びの状況を十分把握しつつ、学校教育活動全体を通じ、与えられた課題について友達と助け合いながら、自分が果たすべき役（学習や仕事）をしっかりと果たすといった集団規範性の形成を図る活動を計画的に進めることが必要。その際、幼児期の教育の方法を取り入れていくことも考えられる。

② 「ものとのかかわり」における留意点

— 幼児期の終わり —

「思考力の芽生え」、「言葉の正しい使い方」、「豊かな感性と表現力の芽生え」（学校教育法）について、今まで学んできたことを総合化し、小学校生活に向けて学びを高めていくため、幼児の興味・関心や生活等の状況を踏まえて教職員が方向付けた課題について、発達の個人差に十分配慮しつつ、これまでの生活や体験の中で感得した法則性、言葉や文字、数量的な関係などを組み合わせて課題を解決したり、場面に応じて適切に使ったりすることについて、クラスやグループみんなで経験できる活動を計画的に進めることが必要。

— 児童期（低学年） —

幼児期における「ものとのかかわり」の指導の状況や実際の子どもの発達や学びの状況を十分把握しつつ、各教科等の指導を通じ、日常生活に必要な基礎的な国語の能力、生活に必要な数量的な関係の正しい理解や基礎的な処理能力、生活にかかわる自然事象についての実感的な理解と基礎的な能力、音や音楽のよさや面白さを感じ取りながら表現・鑑賞する能力、身近な自然物や人工の材料の形や色などから発想や構想の能力などの育成を図るための活動を計画的に進めることが必要。その際、幼児期の教育の方法を取り入れていくことも考えられる。

③ 人やものとのかかわりと言葉や表現の関係

人やものとのかかわりを支えるために重要な役割を担うのが言葉や表現である。言葉や表現は学びの基礎力を育む上で極めて重要であり、学びの基礎力が育まれる中で言葉や表現も発達していく。こうした言葉や表現の重要性を踏まえ、言葉や表現を通じて他の子どもや教職員・保護者とのやりとりを行うことで気付きや思考を深めようとする活動が展開されるよう、留意することが必要。

④ スタートカリキュラムの編成における留意点

小学校入学時に、幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムが生活科などを中心に各小学校において進められており、今後ともその取組を進めていくことが必要。スタートカリキュラムを編成する上での主な留意点は次のとおり。

- ・ 幼稚園、保育所、認定こども園と連携協力すること
- ・ 個々の児童に対応した取組であること
- ・ 学校全体での取組とすること
- ・ 保護者への適切な説明を行うこと
- ・ 授業時間や学習空間などの環境構成、人間関係づくりなどについて工夫すること

⇒各学校・施設において幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿をイメージする。

○ 各幼稚園等の取組の参考となるよう、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿を参考例として示している。

(文部科学省 HP より平成 22 年 11 月 11 日

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」参照)



計画例① 南足柄市立むつみ幼稚園指導計画（月案）

年長ばら組 11月

<ねらい>

- 友達とのかかわりを深め、互いの考えやイメージを受け止めたりしながら遊びを進める。
- 自分なりのめあてをもって遊ぶ中で、試したり工夫したりする。

<内容>

- 自分なりにめあてをもち、最後まで取り組もうとする。
- 共通の目的に向かって友達と遊びを進めていく。
- 遊びに必要なものを自分たちで考えたり、試したり工夫したりして用意する。
- 互いに考えや思いを伝えたり、受け止めたりしながら遊びを進めていく。
- 絵本や物語などの登場人物の気持ちを汲み取ったり、共感したりする。
- いろいろな歌の歌詞の意味を感じたり情景を思い浮かべたりしながら、気持ちを込めて歌う。
- 地域の人や小学生と一緒に遊んだり、いろいろなことを教えてもらったりする中で、親しみをもったり憧れの気持ちをもったりする。
- 地域の公園や図書館に出かけ、自分たちの住んでいる街の様子に関心をもったり親しみをもったりする。

日	行事	幼児の主な活動	教師の仕事
1 (日)			
2 (月)			
3 (火)	文化の日		
4 (水)	若松会竹馬指導 (10:00)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">好きな遊びをする</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <室内> ケーキ屋さんごっこ、磁石遊び、縫い物、粘土、木工遊びなど </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <戸外> リレー、基地作り、ドッジボール、竹馬、鉄棒など </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <今月の絵本> 「11びきのねこふくろのなか」「おぼけやしきへようこそ」「いやいやえん」など </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <今月の歌> ♪かきのみ三つ ♪少年少女冒険隊 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 当番活動に取り組む (欠席報告、カメラの世話) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> むつみ劇場に向かって </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <9日~13日> ・劇にしたい話を決める。 ・好きな場面やなってみたくて役を話し合う。 ・いろいろな役になって物語を自分なりに表現する。 ・必要な大道具を話し合う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <16日~20日> ・劇にしていきたい場面を話し合う。 ・なりたくて役を決める。 ・必要な大道具や小道具を考えたり作ったりする。 ・どんな衣装を身につけたいか同じ役の友達と考える。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <24日~30日> ・自分の台詞を大きな声で自信をもって話す。 ・お互いの取り組みを見て、どうしたらもっと良い劇になるか考える。 ・他のクラスの劇を見たり、見てもらったりする。 </div>	きらり発表部会
5 (木)	家庭教育学級 (9:30) お話会 (11:30)		
6 (金)			
7 (土)			
8 (日)			
9 (月)	むつみアンサンブル (11:15)		
10 (火)	園外保育 (図書館) 11:30 降園		
11 (水)			
12 (木)	あゆみ文庫 (11:30)		
13 (金)	避難訓練		
14 (土)			
15 (日)			
16 (月)	向田小5年生との交流 (9:45)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <室内> ケーキ屋さんごっこ、ケーキ屋さんごっこ、影絵遊び、木工遊び、自然物で製作など </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <戸外> 家ごっこ、ドッジボール、竹馬、落ち葉拾いなど </div>	
17 (火)	劇遊び (12:30)		
18 (水)	劇遊び (11:20) 園外保育 (ちびっこ公園)		
19 (木)	劇遊び (10:00) 13:00 降園		
20 (金)	保育参観 11:30 降園		
21 (土)			
22 (日)			
23 (月)	勤労感謝の日		
24 (火)	歌の会 (10:30)		
25 (水)			
26 (木)	11月生まれ誕生会		
27 (金)	若松会交流 (13:00)		
28 (土)			
29 (日)			
30 (月)			

- 環境構成
- ☆教師の援助
- 自分なりのめあてをもってじっくりと取り組めるような活動を用意する。(縫い物、磁石遊び、竹馬など)
☆自分なりのめあてに向かって取り組んでいる姿を認め励ましていく。幼児と一緒に目標を決め、最後まで取り組もうとする気持ちが持てるようにする。
 3. 4.
○幼児の生活や興味・関心を捉え、ごっこ遊びのイメージをもてるようなきっかけをいろいろな方法で作っていく。(絵本、歌など)
○友達との遊びのイメージが実現しやすいようにいろいろな材料や道具を用意し、選んだり探したりできるようにする。
☆お互いの思いや考えを出し合って、イメージを共通にしようとして認め合ったりしながら遊びを進めている姿を見守っていく。伝わりにくかったりトラブルになったりした場合には、教師が仲立ちをし、受け止めあえるきっかけとなるようにする。
☆個々やグループの取り組みの姿から、実現したいイメージを受け止め、教師も一緒に試したり工夫したりしながら適切な材料に気付けるようにしていく。
 - 幼児の興味や遊びを捉え、遊びの糧になったり、劇遊びに向かって共通にイメージを広げられるような絵本や物語を用意する。
☆幼児のつぶやきを拾い、絵本や物語を聞いてそれぞれが思ったことや感じたことを伝え合ったり、役になりきって表現したりする中で、登場人物の気持ちを考えられるようにする。
 - 季節を感じられる歌、場面が想像しやすい歌、想像して楽しい歌を用意する。
☆歌の世界を丁寧に幼児と一緒に想像していき、一緒に楽しんでいく。また、文字に興味をもっている幼児も多いので、歌詞を模造紙に書いておき読んでも楽しめるようにしておく。
 - 地域の方々やと直接触れ合える機会を多くもつ。(竹馬、お話会、コーラスなど)
○事前に幼・小の教師で打ち合わせをし、お互いのねらいや流れを把握しておく。(5年生との交流)
☆ひとつの活動と一緒に楽しむ中で、地域の方々や小学生のもつ力を幼児に知らせていき、親しみや憧れの気持ちにつなげられるようにする。
 - 地域に出かけたり、公共の場や交通機関を利用したりする機会を作る。
☆園や家の周りなど、自分たちの地域をもっと知る楽しさを教師も一緒に感じていく。また、地域に出かけた時の様子を保護者にも知らせていき、家庭でも地域に出かけるきっかけとなるようにしていく。

計画例①

年 長 ばら組 指 導 案

1 学級の実態

（1）友達とのかかわり

○気の合う友達と集まって、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりしながら一つの遊びに取り組む姿がいろいろな場面で見られる。相手の思いやイメージを聞いたり、受け止めて遊びを進めようとしたりする姿も出てきている。

○遊びを楽しくするために、友だちと一緒に繰り返し試したり工夫したりなど、一つのことをじっくりと追究しようとする姿が出てきている。

（2）学級集団の育ち

○10月に出かけた山登りに欠席した幼児を気にかけて、「〇〇君に山はどんなところだったか話してあげよう。」「写真も見せてあげよう。」と幼児同士で考えたり、足を痛めている幼児を気にかけて「良くなったらばら組みんなでドッジボールをしよう。」と話したりなど、学級としての意識やつながりがより強くなってきている。

（3）生活習慣への取り組み

○当番活動に自主的に取り組み、翌日の当番の幼児にも自ら「明日お当番よろしくね!」とバトンタッチをするなど、自分たちで進めようとする気持ちがうかがえる。

○時計の長い針で教師が目安を伝えると、片付けの時間や食事の時間を自分たちで意識して次の行動をするなど、見通しをもって生活をしようとする姿が多く見られる。

（4）きらりの観点（ふれあい）からみた実態

○先日、向田小5年生が幼稚園に来てくれて、鬼ごっこを一緒にしてくれたり折り紙の折り方を教えてくれたりなど、触れ合いを楽しんだ。5年生が“幼児に喜んでもらいたい”という気持ちをもってみんなで「転んじやったときに起こしてくれたとき、優しいなあって思った。」「名前も覚えたよ。」「もっと一緒に遊びたかったから、また来てほしい。」などの言葉から、親しみを感じられたことが伝わった。

○お話会や歌の会をしてくださる方々、自治会の方々、園を拠点としたコーラスサークルの方々など地域の方々と一緒に活動する中から、幼児の遊びや活動のヒントも探るようになってきた。地域の方々に刺激を受け、教えてもらったことを遊びに取り入れようとする姿が見られる。

2 教師の願い

（1）学級の友達と一緒に一つのことに向かったり、やり遂げたりする楽しさを味わってほしい。

12月のむつみ劇場に向かって、みんなで演出の仕方などを考える機会をもち、それぞれの考えを取り上げて認めていくことで、友達の考えを受け入れ、さらにつながりがを深まるようにしたい。

（2）身の回りにある不思議なことや美しいものなどを素直に感じ、表現してほしい。

光、音、力、など身の回りで起こる不思議なことや、身の回りに存在する美しいものにたくさん触れられるようにしていき、繰り返し試して追究したり、感じたことを言葉や動き、絵画など自分なりの方法で表現したりする場を保障していくことで、満足感や充実感を味わってほしい。

（3）自分たちで生活を組み立てていくことで自信や喜びを感じてほしい。

幼児と一緒に一日の予定や翌日の予定を組み立てたり、それに応じて準備をしたりしていく機会を作っていく、生活に見通しをもって活動できるようになってほしい。また、自分たちで進めていることを実感し、自信をもってほしい。

3 日案

<本日のねらい>

- 友達と考えを出し合ったり、イメージを伝え合ったりしながら遊びに必要な場や物を整えていく。
- 自分なりのめあてに向かって何度も試したり工夫したりして遊びに取り組む。

<内容>

- ・ごっこ遊びやドッジボールに取り組む中で、友達のイメージや意見を受け止めて遊びを進めようとする。
- ・むつみ劇場に向かって、友達と一緒に必要な大道具や小道具を考えたりイメージをもって作ったりする。
- ・影絵遊びや竹馬など、興味をもって繰り返し試したり、あきらめずに何度も挑戦したりする。

<きらりの観点から>

- ① ・学級や学年の友達と同じ場に集まり、やりとりをすることを喜んで遊びを楽しむ。

時間・活動	○環境構成 ☆教師の援助
<p>8:45~9:00 登園、身支度</p> <p>9:00~ 室内遊び ・寿司屋ごっこ ・影絵遊び ・大道具小道具作り など</p> <p>9:45 片付け 集まり</p> <p>10:00~ 戸外遊び ・竹馬 ・ドッジボール ・家ごっこ など</p> <p>※雨天時 ・劇遊び ・わらべうた など</p> <p>10:45~ 片付け</p> <p>11:00~ 降園準備 火曜の予定確認</p> <p>11:30 降園</p>	<p><室内></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○同じ役の幼児同士道具作りが楽しめるように場を作る。</p> <p>☆身に付けることを一緒に楽しみにしたり、他にどのような物が必要か、どのような台詞を話すかなど、一緒に考えていく中で幼児の思いを引き出していく。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○セロハン、○HP 機器を幼児が自由に使えるように用意しておく。</p> <p>☆一緒に楽しむ中で、幼児が感じている不思議さ、美しさ、発見や驚きに共感していき、さらに興味が深まるようにする。</p> </div> </div> <p>○幼児のイメージを汲み取り、必要な道具や材料を一緒に用意していく。</p> <p>☆教師もお客さんになり、やりとりを楽しんでいく。遊びが一人の意見で進んでしまいそうな時には、個々のアイデアを受け止め周囲の幼児に知らせ、互いのアイデアに気付けるようにしていく。</p> <p><園庭></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○布やままごと道具など、幼児が自分たちで取り出しやすいように整理しておく。</p> <p>☆自分たちでイメージをもって場を整えたり役を決めたりして遊びを進めている姿を受け止め、見守っていく。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○学年のみんなで取り組む時間を作っていく。遊びの場が重ならないよう、コーンの置き場を明確にする。</p> <p>☆昨日より上手になっているところを具体的に伝えていき、さらに意欲と期待をもって取り組めるようにする。</p> </div> </div> <p>○幼児と一緒にコートを描く。</p> <p>☆知っているルールを友達同士で伝え、遊びを進めている姿を受け止めていく。トラブルが起きたときにはその経緯を見守りながら、必要に応じて仲介に入り、互いの意見を受け止められるようにする。</p>

計画例③ スタートカリキュラム

第1学年 学習予定表

子どもたちは、早く教科書を使って「算数」や「国語」の勉強をしようと、学習意欲にもえています。しかし、新しい学校生活に緊張し、家に帰るとぐったりしている子どもも少なくありません。

そこで、入学して1週間は、用具の片付け方、トイレの使い方など学校生活のルールについて学んだり、仲間作りの活動をしたりして、学校って楽しいと思えるようなカリキュラムを設定します。

その後、子どもたちの様子を見ながら1時間の授業の内容を工夫していくことが大切です。

4月 第1週		学習予定表			
日	6	7	8	9	10
曜日	月	火	水	木	金
時数	3	2	2	3	3
1	入学式	学級活動	学級活動	生活	行事
		用具のしまい方 あいさつ、返事 並び方	トイレの使い方 ろうかの歩き方 流しの使い方	ともだち いっぱい	登校班 編成
2		図画工作	算数	国語	体育
		すきなものなあに パステルを使って	かずとすうじ すうじの書き方	えんぴつの持ち方 せんの練習	着がえ 並び方 遊具を使って
3				音楽	国語
				たいめんしきの歌 校歌	うれしいひ お話を聞く 見つけたものを話 す ひらがな練習

生活は、入学して出会った友達に自己紹介をし、じゃんけん握手をして友達の輪を広げる仲間作りの活動を行います。

国語の「お話読んで」では読み語り15分、音読15分、ひらがな練習15分など、1時間の授業45分を3つに区切るなど授業内容を工夫しています。

計画例④ 生活科との合科・関連的な指導

第1学年 生活科

1 教科 生活科（合科・関連的な指導：国語・音楽・図工等）

2 単元名 がっこう だいすき

3 単元目標及び合科・関連教科のねらい

生活科：①学校の友達や先生と親しくかかわったり、学校探検で学校の施設を見つけたりする活動を通して、安全に気を付けて楽しく学校生活を送ろうとしている。

②友達と楽しく遊びを工夫したり、学校探検で発見したことや感じたことを絵や文などで表現したりすることができる。

③学校には、みんなが遊んだり学習したりするための施設や決まりなどがあることや学校生活は、たくさんの人々に支えられていることに気付く。

国語：学級のみんなの前で知ったことや分かったことを話すことができる。

算数：教室の数や簡単な施設の物の数などが数えられ書くことができる。

音楽：校歌を知り、楽しく歌うことができる。

図画工作：学校探検で見つけたものを絵で表すことができる。

体育：運動場にある施設で遊びやその遊び方が分かる。

道徳：気持ちのよいあいさつに心掛けて、明るく接することができる。

4 指導計画（8時間＋12時間扱い）

・生活科・・・8時間

・国語「たんけんしたよ みつけたよ」（4時間）・道徳（1時間）

・算数「数の学習」（1時間）・音楽「校歌を歌おう」（1時間）

・図画工作「せんせいあのね」（1時間）・体育「ゆうぐであそぼう」（4時間）

1 教科 生活科（合科・関連的な指導：国語・音楽・図工等）

2 単元名 はないっぱいになあれ

3 単元目標及び合科・関連教科のねらい

生活科：①自分自身で植物の種をまいたり苗を植えたりして育てることによって、それらの成長の変化に気付くことができるようにする。

②植物を育てる活動を通して、植物も自分たちと同じように生命をもっていることを感じ取るとともに、親しみをもって世話をすることができるようにする。

国語：聞き手に分かりやすいようにはっきりと大きな声で話すことができる。

算数：10を単位として（何十）±（何十）の計算の意味を理解できる。

図画工作：自分が育てたあさがおの生長の様子を絵に表すことができる。

4 指導計画（12時間＋8時間扱い）

・生活科・・・12時間

・国語：「みんなにしらせよう」（4時間）・算数：「大きいかず」（3時間）

・図画工作：「みつけたよこんなもの」（1時間）

III 教育委員会等の支援

県内の教育委員会では、就学前教育と小学校の連携を推進していくために、異校種間の教職員が一堂に会し、研修をしたり協議をしたりする場を大切に考えた取組を行っています。さらに、子どもたちの育ちを長いスパンで捉えていこうと、中学校や高等学校をも含めた連携推進に努めている地域もあり、今回2つの地区の取組を紹介します。

例1（平塚市の事例）

幼稚園・保育所・小学校・中学校の指導の一貫性を図るため、幼・保・小・中連携の推進事業の一つとして「連携学習研究会」を実施しています。公立の幼稚園や学校を会場に、保育や授業の参観をも含めた研究会を設定することで、実際に子どもたちの姿や環境などに触れ、具体的な意見交換を通じた相互理解の場を提供したいと考えています。発足当初は、幼・小・中が対象でしたが、就学前教育との連携の必要性について意識が高まり、平成10年度より保育所も交えた現在の形態となっています。地域の子どもたちを育てていくという視点から、公私立の枠にとらわれることなく、参加を呼び掛けています。

例2（伊勢原市の事例）

平成5年度の「伊勢原市教育センター」開設に際し、各校種の職員等から、「幼稚園・保育所・小学校・中学校の連絡協議会」開設の要望を受け「伊勢原市教育センター」が主管課となり「連絡協議会」が設置されて以来、地域の教育力の向上に努めています。平成6年度には地域の高等学校、養護学校をも含めた教育機関等が一堂に会して、各年齢における生活実態や様子、交流の場を話し合うこととなり、現在に至っています。今後も引き続き人間性の育成という方向で、基本的な指導姿勢の共有化を図り、系統的に一貫した教育を進めていくために、異校種間の職員の相互理解を深めていくことを大切にしたいと考えています。



実践例① 平塚市 公・私立幼稚園・保育所と小学校

★幼・保・小・中連携学習研究会の様子

異校種間の教職員の相互理解を深める場として、市内公私立幼稚園及び保育所、小・中学校、市内にある県立学校の教職員を対象に、公立幼稚園または小学校を会場に毎年開催している。

平成 21 年度は、平成 22 年 1 月 27 日（水）13 時より港幼稚園を会場に実施。

午後の保育や港小学校の児童との交流（冬の遊び）の様子を公開後、全体会で「幼小連携の取組と課題について」というテーマのもと、推進体制づくりや教職員間の交流等、これまでの港幼稚園と港小学校の具体的な取組について報告。

その後、異校種の教職員で構成された 10 人程の小グループに分かれ、連携推進や子どもたちの様子について協議を行った。それぞれの立場から、思いや取組の様子などが熱く語られ、活発な意見交換がなされ、互いの思いや考えを知るよい機会となっていた。どのグループからも、継続的に取り組んでいくための手立てについて、それぞれの園や学校の地域性を生かした方法で取り組みたい、まず職員間のつながりを強めていきたい等建設的な意見が多く出された。



↑ 園舎内全体を参観

← 全体会の様子



〈グループ協議の様子〉

← ホールにて協議するグループ

保育室にて協議するグループ→



★支援のポイント

- ・園や学校を会場とすることで、それぞれの施設や環境構成等を知る機会とする。
- ・会場を固定化せず、その年ごとに依頼することで、各校（園）の連携推進の後押しをしていく。
- ・当日の日程や内容等、園や学校の独自性を尊重する中で準備を進め、各校の継続的な取組につなげていく。

実践例② 伊勢原市 各校の継続的な取組につなげていく 私立幼稚園と小中高等学校

★地域教育機関等連絡協議会の様子

子どもたちの知・徳・体のバランスある成長のために、市内在住の幼児・児童・生徒の発達段階に伴う生活実態についての情報交換を行い、各教育機関等の連携とそれらにかかわる職員及び幼児・園児・児童・生徒の交流を図ろうと、年4回開催している。市内にある全幼稚園、保育所、小・中学校、高等学校、県立養護学校を4つのブロックに編成し、それぞれに「テーマに沿った活動」を研究している。

【ブロック編成とテーマ】

	学校数		市役所	テーマ
	幼・保	小・中・高・県		
A	4	5	保育課	おはようから始めるコミュニケーション ～具体的な動きを～
B	5	5	障害福祉課	成瀬公民館祭りに参加しよう ～子育て支援にできること～
C	6	6	指導室	幼・保・小・中・高の情報交換 ～入園・入学までに身につけておきたい事を通して～
D	6	3	学校教育課 児童相談センター	深めよう 広げよう 縦のつながり 横の交流

[第1回]代表者、並びに実務担当者会 青少年センター集会室

ブロックごとに現状について情報交換し、テーマ設定と計画の立案をする。

[第2回]実務担当者会 ブロックごとに

A：異校種の交流場面や挨拶の実情について話し合う。あいさつポスターを交換。

B：子育て支援の取組として、公民館祭りに参加。あいさつ運動としてポスター作成とチラシの配布、のぼり旗の巡回を実施。

C：就学前から小1までのトイレ指導の実情とトイレの型式について情報交換。

D：高等学校の授業参観。幼い段階からの表現力育成や家庭支援の必要性について話し合う。

[第3回]実務担当者会 伊勢原市立図書館AVホール

講演「幼稚園、小学校をつなぐ教育内容について

～七沢幼稚園から七沢希望の丘初等学校設立を通して～

講師 内田学園理事長・七沢幼稚園園長・七沢希望の丘初等学校校長 内田文江氏

[第4回]実務担当者会 伊勢原市立図書館AVホール

★支援のポイント

・地域内の全教育機関を対象に協議会を実施する・中学校区をベースとしたブロック編成をすることで、地域性を生かす・グループごとに自主的にテーマを設定することで、それぞれの実情に応じた研究を進めることができる・学校を会場とし、施設見学を取り入れることで、異校種の様子を知るよい機会とする。

IV 幼稚園と小学校と家庭や地域をつなぐ(資料)

幼稚園の教育は、そのほとんどが家庭と幼稚園とで行われるため、両者が連携・協力して幼児の成長を援助していく必要があります。幼児は、家庭での体験をもとに、幼稚園での友達や教師とのかかわりを通してまなびを深めていき、幼稚園での体験をもとに、家族やさらに地域での活動をより豊かにしていきます。

また、小学校期は、幼児期のまなびをもとにさらに、時間的、空間的に広がりをもった学びが展開されていきます。そのためには、学校での教育について家庭・地域への理解を図ること、家庭・地域での様子について家庭・地域からの声に耳を傾けること、そして、学校・家庭・地域が共に連携・協力して共通理解を図りながら子どもを育てていくことが必要になります。

○相互の理解を図る

幼稚園や小学校の教育方針について正しく理解してもらうために、家庭や地域に対して広報する場を設けていく必要があります。

家庭に対しては、機会をとらえて、幼稚園や小学校での遊びや学習の様子、頑張っている様子、成長の様子を具体的に伝え、安心感とともに信頼感をもってもらえるようにしていきます。

地域に対しては、幼稚園や小学校が求めていることやできることを伝え合い、相互の理解を図っていきます。

○声を聴く

家庭や地域の声に耳を傾け、思いや期待を的確に把握することが大切です。家庭や地域の声には、様々なものもあるかもしれませんが、声を聴くことで、話し合うことや思いを伝え合うことができ、連携を深めていく基盤がつけられていきます。

○共に育てる

幼稚園と小学校、家庭、地域が、相互に理解し合い、共通した認識や願いをもって子どもたちの指導に当たることは、どの場面においても同じ対応や指導を受けることができ、子どもの成長にとって大切なことです。



幼稚園幼児指導要録 (学籍に関する記録)

区分	年度		年度		年度		年度	
	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
学 級								
整理番号								

幼 児	ふりがな 氏 名					性 別	
		平成	年	月	日生		
	現住所						
保護者	ふりがな 氏 名						
	現住所						
入 園	平成	年	月	日	入園前の 状 況		
転入園	平成	年	月	日			
転・退園	平成	年	月	日	進学先等		
修 了	平成	年	月	日			
幼稚園名 及び所在地							
年度及び入園(転入園) ・進級時の幼児の年齢		平成	年度	平成	年度	平成	年度
		歳	か月	歳	か月	歳	か月
園 長 氏名 印							
学級担任者 氏名 印							

幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)

ふりがな	平成 年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
	(学年の重点)		(学年の重点)		(学年の重点)		(学年の重点)	
氏名								
性別								
ねらい (発達を捉える視点)								
健康								
人間関係								
環境								
言葉								
表現								
出欠状況	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
教育日数								
出席日数								

学年の重点：年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入
 個人の重点：一年間を振り返って、当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入

指導上参考となる事項：

- (1) 次の事項について記入すること。
 - ① 1年間の指導の過程と幼児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。
 - ・幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。
 - ・その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。
 - ・幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿。
 - ② 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。
- (2) 幼児の健康の状況等指導上特に留意する必要がある場合等について記入すること。

支援シート I **これまでの支援** **これからの支援**

ふりがな 氏 名	所 属 機 関	記入日	相談メンバー
	↓		

* 記入者には○印をつける

	項 目	内 容
これまでの取組	所 属 機 関	
	家 庭 生 活	
	余暇・地域生活	
	健康・安全・相談	

これまでの取組の評価		
------------	--	--

これからの計画	これからの方針	
	所 属 機 関	
	家 庭 生 活	
	余暇・地域生活 卒業後の生活	
	健康・安全・相談	

支援シートⅡ 支援の内容と役割分担

ふりがな 氏名		所属機関	(学年)
記入日		相談メンバー	
見直し日		相談メンバー	

*記入者には○印をつける

課 題 または ニーズ	
-------------------	--

項目	機 関	担当者	支援の内容	見直し 予定日	見直し 評 価
所属機関					
家庭生活					
余暇・地域生活					
健康・安全・相談					

3. 幼稚園・保育所等と小学校をつなぐシート

小学校に入学する際に、幼稚園・保育所と小学校との段差をなめらかにして子どもたちがスムーズに小学校生活を送ることができるようにすることが大切です。

そこで、幼稚園・保育所と小学校の先生方が、懇談会・研修・連絡会等で話し合いをする時に、『幼稚園・保育所と小学校をつなぐシート』を活用して、相互の教育について理解し合しましょう。

*幼稚園・保育所での生活の流れは、どのようなことに気を付けていたのかな？

*幼稚園・保育所ではどのような飼育栽培をしていたのだろうか？

活用の意義

幼稚園・保育所等にとっては・・・

シートを活用して懇談会等で話し合うことを通して、園での活動や体験がどのように小学校につながっていくのかを知ることができる。



小学校にとっては

それぞれの園の活動を知ることによって、当初の1年生へのかかわり方や、1年生が自信をもって取り組むことができるようなヒントを得ることができる。

各教科が園での活動や体験とどのようにつながっているのかを知ることができる。「学びの連続性」という視点からも考えていくことができる。



活用方法

1. 幼稚園・保育所等の先生方が必要事項を予めシートに記入する。
2. 懇談会等の際にシートを小学校が確認し、必要に応じて様子を詳しく聞く。
3. 子どもたちにとってよりよい連携の方法について話し合う。

バトンタッチシート（例）

幼稚園・保育所等の 1日の流れ		記入	：	：	降園時刻						
						月曜日	：				
		例	9:00	9:30	10:00	12:00	13:00	13:40	14:00	火曜日	：
						木曜日	：				
						金曜日	：				
						土曜日	：				
昼食		弁当 ・ 給食（ 園内の給食室で調理 業者委託 その他 ）									
遊 び	人気のある遊び	○室内（ ） ○戸外（ ）									
	伝承遊び	○種類→ お手玉・メンコ・あやとり・竹馬・こま・その他（ ）									
	水遊び（プール）	□実施→時期（ 月～ 月） 内容（ ） □実施せず									
運 動	ドッジボール	□実施→円形・四角 ボールの種類→ドッジボール・その他（ ） □実施せず									
	なわとび	□実施→短縄・長縄・その他（ ） □実施せず									
	鉄棒	○指導形態→一斉指導・必要に応じて個別に指導 ○内容（ ）									
	跳び箱	○指導形態→一斉指導・必要に応じて個別に指導 ○内容（ ）									
活 動	飼育	○飼育動物（ ） ○園児の関わり（ ）									
	栽培	○時期・栽培物（ ）									
	当番・係	○内容（ ）									
	掃除	○経験→ほうき・ちりとり・ぞうきんがけ									
文 字	自分の名前	○指導形態→一斉指導・必要に応じて個別に指導・その他（ ）									
	ひらがな	○指導形態→一斉指導・必要に応じて個別に指導・その他（ ）									
歌	よく歌う歌	題名「 」 「 」 「 」 「 」 「 」									
	手遊び歌	題名「 ） 「 ） 「 ） 「 ） 「 ） 「 ）									
	楽器の使用	鍵盤ハーモニカ・タンバリン・カスタネット・すず・トライアングル・その他（ ）									
本	読み聞かせ	□実施 どんな時に（ ） □実施せず									
	絵本を見る機会	□ある どんな時に（ ） □ない									
	人気のある絵本	題名「 ） 「 ） 「 ） 「 ） 「 ） 「 ）									
道 具	のり	容器・チューブ・スティックのり お手ふき用意→あり・なし のり台紙→使用・使用せず									
	はさみ	使用・使用せず									
	絵の具	□使用→チューブ・カップに溶かして全体で使用・固形絵の具 □使用せず									
異校種間等交流		幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校・その他（ ）									
園の特色ある活動											

〈平成 18 年度川崎市総合教育センター幼児教育研究会議報告資料 参考〉

4. 地域とつなぐシート

家庭や地域とのかかわりについて、情報を一箇所に収集し、園や学校の財産として、ネットワークのシートを作成すると、いつでも、誰でも活用することができる。また、データは新しく追加、訂正、削除できるようにシート型にしておくとう活用がしやすい。

(1) シート様式例

○例 1

【ネットワークシート】 (例)		○○幼稚園
内容	『サツマイモ掘り』	
協力者	○○老人会	連絡先 (○○) ○○○○(自宅)
協力の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期間 10月～11月 ・ 内容 掘り方の説明と指導 	
★連携のポイント		
サツマイモの苗植えから収穫までの年間計画を事前に作成し、協力者に事前に伝えておく。		

○○小学校 ネットワークシート		No. 3																						
名称	○ ○ クラブ	連絡先 TEL (○○○) ○○○-○○○○ FAX (○○○) ○○○-○○○○																						
代表者	神 奈 川 花 子	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">配慮すること</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ 連絡は、FAXを中心に</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ 金曜日は不可</td> </tr> </table>	配慮すること		・ 連絡は、FAXを中心に		・ 金曜日は不可																	
配慮すること																								
・ 連絡は、FAXを中心に																								
・ 金曜日は不可																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">連携できること</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ 読み聞かせのボランティア</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ 絵本や紙芝居、人形劇などが可</td> </tr> </table>		連携できること		・ 読み聞かせのボランティア		・ 絵本や紙芝居、人形劇などが可		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">今までの実績</td> </tr> <tr> <td style="width: 15%;">月日</td> <td style="width: 85%;">内 容</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>1年生「朝の会」で人形劇実施</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>2年生「学年集会」で読み聞かせ</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	今までの実績		月日	内 容	5月	1年生「朝の会」で人形劇実施	6月	2年生「学年集会」で読み聞かせ								
連携できること																								
・ 読み聞かせのボランティア																								
・ 絵本や紙芝居、人形劇などが可																								
今までの実績																								
月日	内 容																							
5月	1年生「朝の会」で人形劇実施																							
6月	2年生「学年集会」で読み聞かせ																							

(2) ネットワーク先と連携できる内容

【例】

- 地域の高齢者の会・・・地域の行事や昔の遊び など
- 読書のボランティア団体・・・読み聞かせ など
- 地域の農業を営む方・・・作物の育て方
- 地域の文化団体・・・団体で行っている文化活動
 - 囲碁クラブ
 - 将棋クラブ
 - ゲートボールクラブ
 - パターゴルフクラブ
 - コーラスグループ
 - 器楽奏のグループ etc.
- 地域のスポーツクラブ・・・団体で行っているスポーツ
 - サッカークラブ
 - 野球クラブ
 - バスケットボールクラブ etc.
- 地域の商店を営む方・・・お店の仕事を知る

- 地域の工場や会社・・・仕事を知る

(3) シートの活用方法や注意事項

- 情報がたまっていくようにファイリングする。
- 園や学校においてすべての職員が閲覧できるように場所を固定する。
- いつでも記入できるように用紙を準備しておく。
- 園や学校で既に連携している職員に情報を聞いてから連絡する。
- 古くなった情報は、年度ごとに適切に破棄する。
- 個人情報保護に十分配慮し、シートの取扱いには細心の注意を払う。



まなびと学びをつなぐ
小学校と就学前教育の連携 指導資料集

発行年月日	平成 23 年 3 月
発 行	神奈川県教育委員会
編集責任者	子ども教育支援課長 笠原 陽子
印 刷 所	有限会社 青史堂印刷

